

年 2003 まほろん

年報二〇〇三の福島県文化財センター白河館

報

福島県教育委員会



「財」福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター白河館



「財」福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター白河館





館長講演会



第1回ボランティアイベント『まほろん1周年だよ！ボランティア2002』火おこし体験

年報2003の発刊によせて

館 長 藤 本 強

「まほろん」開館2年目、平成14年度の「まほろん」についてのいろいろな記録を収めるのが本年報の目的です。昨年の特刊号でも書きましたが、こうした記録を一つ一つ丹念に残していくことが「まほろん」の歴史を綴ることになるのです。

年度を通しての初の運営になることで、考えていたいろいろなプログラムが動き始めた最初の年ということになります。「まほろん探検隊」、「お出かけまほろん」、ボランティアの皆さんの年度を通しての積極的な行事への参加など、多くの事業が県民をはじめとする多くの皆さんの支持が得られ、まずは順調に一年を送ることができたものと思われまします。館員一同心から感謝いたします。

小中学校を主にした団体利用、PTA活動の一環としての来館など、団体利用の方々が増えてきたのも本年度の特徴としてよいと思われまします。団体で来られた方が楽しまれて、個人的に家族でまた訪れられることも多くなりました。私どもにとってたいへんに嬉しいことです。

危ぶまれていた来館者の落ち込みもさほどなく、年間3万人以上の方々においでいただきました。多くの方々に「まほろん」が目指している方向が指示された結果と考えております。

どんどんなくなっている伝統的な習慣や技術を、あるいはそうしたものの背景にある価値観を次の世代に受け継ぐことは大事なことです。今の私たちがあるのは、私たちの祖先が長年かかって築き上げてきた価値観、習慣、技術などがあったからです。そこには学ぶべき多くのことがあります。私たちの時にそれを断ち切ることはできません。次の世代に受け継いでいくようにしていかなければなりません。私たちの世代の責務ともいえましよう。

その役割を少しでも担いたいと考えております。これからも「まほろん」を楽しんでいただくとともに、遠慮ないご要望とご批判をお寄せくださるようお願いいたします。

目 次

第1章 まほろんの沿革……………	1	2. 募集型……………	16
1 開館までのあゆみ……………	1	3. 館外体験支援事業……………	16
2 開館後のあゆみ……………	1	6 常設展事業……………	17
第2章 平成14年度組織と職員……………	3	7 企画展事業……………	19
1 まほろんの組織……………	3	1. まほろん春のてんじ 「いにしえの隈畔人のくらし」……	19
2 職員名簿……………	3	2. まほろん夏のてんじ 「弘法山のよこあな —古代ガラスと象眼の世界—」…	23
第3章 平成14年度予算……………	4	3. まほろん秋のてんじ 「ふくしまの重要文化財展 —縄文・弥生編—」……………	26
1 一般会計……………	4	4. まほろん春のてんじ 「新編陸奥国風土記 卷之一 石背郡」……………	27
2 物品販売特別会計……………	5	5. 復元研究……………	28
第4章 平成14年度事業の概要……………	5	9 ボランティア運営事業……………	30
1 管理運営……………	5	1. 登 録……………	30
1. 運営協議会……………	5	2. 活動内容……………	30
2. 出版物……………	5	3. ボランティア受け入れ体制……………	30
2 資料管理事業……………	6	4. ボランティアコーディネーターの 設置……………	31
1. 収蔵資料数一覧……………	6	5. ボランティア研修……………	31
2. 資料貸出し……………	6	6. 開館1周年記念イベント……………	31
3. 資料閲覧……………	7	第5章 入館者統計……………	32
3 情報発信事業……………	9	1 月別入館者数……………	32
1. ホームページによる情報発信……………	9	2 区分別利用状況……………	32
2. データベースによる情報提供……………	9	3 団体利用状況……………	33
3. 研究紀要……………	10	第6章 まほろんの施設の概要……………	34
4. まほろん通信……………	10	第7章 まほろんの条例・規則……………	37
5. まほろん館長講演……………	12	1 条 例……………	37
6. まほろん文化財講座……………	12	2 条例施行規則……………	38
4 研修事業……………	12		
1. 研修事業実施の概要……………	12		
2. 研修事業実施の考え方……………	12		
3. 実 績……………	13		
4. 研修実施状況……………	13		
5. 今後の課題……………	15		
5 体験学習事業……………	15		
1. 常時体験型……………	15		

第1章 まほろんの沿革

1 開館までのあゆみ

- ・平成6年度
福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申
- ・平成8年度
「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定
- ・平成9年度
基本設計
- ・平成10年度
実施設計・用地取得・造成工事
- ・平成11年度
造成工事・建築工事
平成11年11月
施設愛称を公募し「まほろん」に決定
平成12年3月
シンボルマーク・ロゴマークの決定
- ・平成12年度
建築工事・環境整備工事・野外展示工事・屋内展示工事
平成12年8月20日
第1回プレイベント『親子で学ぶ縄文時代』開催（場所：白河市文化センター）
平成12年10月1日
第2回プレイベント『みんなで昔の家を作ろう！』開催（場所：白河館体験広場）
平成13年3月27日
福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定
- ・平成13年度
屋内展示工事
平成13年4月1日
福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託
平成13年6月10日
第3回プレイベント『まほろん講演会』開催（場所：福島ビューホテル）
「考古学は今何を語るか」藤本強館長

平成13年6月29日

平成13年度第1回運営協議会

2 開館後のあゆみ

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館
開館記念式典

平成13年7月15日～9月2日

第1回開館記念特別展「はにわ一座がやってきた。」開催

平成13年8月5日

開館記念イベント「まるごと体験まほろん」開催

平成13年8月17日

入館者10,000人到達

平成13年10月27日～12月2日

第2回開館記念特別展「復元！三角縁神獣鏡」開催

平成14年1月26日

入館者30,000人到達

平成14年2月2日～3月31日

収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之一 白河郡」開催

平成14年3月15日

平成13年度第2回運営協議会

平成14年3月17日

第44回福島県考古学会（白河市にて開



開館記念式典



開館日の体験活動室

催)による視察

平成14年4月21日～6月23日

平成14年度巡回展「新編陸奥国風土記巻之一 白河郡」・野馬追いの里原町市立博物館にて共催

平成14年4月27日～5月26日

平成14年度まほろん春のてんじ「いにしへの隈畔人のくらし」開催

平成14年7月21日

開館1周年記念イベント「まほろん1周年だよ！ボランティア2002」開催

平成14年7月27日～9月1日

平成14年度まほろん夏のてんじ「弘法山のよこあな—古代ガラスと象嵌の世界—」開催

平成14年10月26日～11月24日

平成14年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財—考古資料 縄文・弥生時代編—」開催

平成15年3月8日～5月18日

平成14年度まほろん春のてんじ「新編陸

奥国風土記 巻之二 石背郡」開催

年 表

94年度 福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

96年度 「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

97年8月 基本設計（～98年3月）

98年5月 実施設計（～99年3月）

99年8月 着工

00年10月 竣工

01年3月 環境整備工事完了

01年6月 展示工事完了

01年7月 開館

工期 着工 平成11年7月12日

完成 平成12年10月16日



開館記念イベントのあんぎん編み

—コラム—

まほろん植物誌（3）

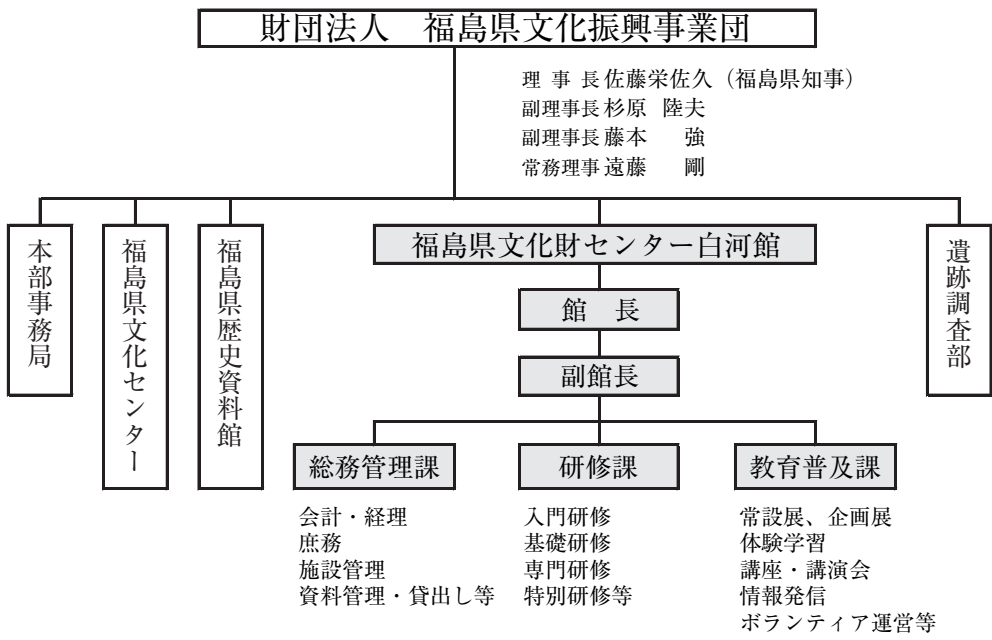
ウワミズザクラ（上溝桜） 体験学習館のまわりの木々の中に、5月の初め頃に白い房状の花をたくさんつける木があります。これはウワミズザクラというバラ科の落葉広葉樹です。とてもこの花からソメイヨシノなどのサクラと同じ仲間とは思えませんが、葉や木肌を見ると確かにサクラです。まほろんの敷地にたくさんあるミズキと同じように、まほろん建設前からこの地に自生している樹木の一つです。果実は新潟県や群馬県では杏仁子（アンニンゴ）と呼ばれており食用になります。上溝桜の名称は、昔この材の上に溝を彫って、亀甲を焼いて吉凶を占ったことに由来するそうです。



第2章 平成14年度組織と職員

福島県文化財センター白河館は、福島県教育委員会から財団法人福島県文化振興事業団に管理運営業務が委託され事業を行っている。財団法人福島県文化振興事業団の組織及び福島県文化財センター白河館の組織・業務の概要は以下のとおりである。

1 まほろんの組織



2 職員名簿

職名	氏名	課	職名	氏名
館長	藤本 強	教育普及課	課長	村木 亨
副館長	今泉 忠廣		主任学芸員	森 幸彦
総務管理課	課長(兼務)		主任学芸員	吉田 秀享
	主査		主任学芸員	藤谷 誠
	主任学芸員		主任学芸員	荒木 隆
	主事		副主任学芸員	今野 徹
研修課	課長		学芸員	高橋 満
	専門学芸員		職員数 17名 (内訳) 派遣職員 6名 財団職員 11名	
	主任学芸員			
	学芸員			
	学芸員			

定数外

アテンダント（嘱託） 5名

郡 司 知 子
緑 川 千彩子
甲 賀 寿美恵
佐久間 育 子
小 黒 加容子

臨時事務補助員 2名

近 藤 圭 子
荒 木 瞳

第3章 平成14年度予算

1 一般会計

(単位：円)

大 科 目	中 科 目	決 算 額	大 科 目	中 科 目	決 算 額
受託事業収入	文化財センター 白河館管理事業	97,468,451	文化財センター 白河館管理 委託費	諸謝金	198,000
事業補助金収入	文化財センター 白河館運営事業	160,138,676		旅費交通費	3,484,135
特定預金収入	退職給与引当金 戻入収入	803,100		消耗品費	10,871,455
雑収入	預金利息収入	863		燃料費	299,507
				会議費	9,000
				印刷製本費	5,034,601
				光熱水料費	12,134,503
				修繕料	1,814,610
				通信運搬費	10,186,712
				手数料	568,092
				保険料	235,350
				委託料	37,886,384
				賃借料	14,577,907
				負担金	111,050
				租税公課	57,145
				小計	97,468,451
			文化財センター 白河館 運営補助費	報酬	14,909,137
				給料手当	120,760,293
				退職手当	803,100
				福利厚生費(人件費)	15,309,850
				退職手当引当金支出	4,221,753
				福利厚生費(物件費)	494,593
				災害補償費	0
				賃金	3,553,934
				諸謝金	94,200
				旅費交通費	581,115
				交際費	0
				会議費	0
				手数料	171,164
				負担金	43,500
				小計	160,942,639
合 計		258,411,090	合 計		258,411,090

2 物品販売特別会計

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
1. 事業収入 物品販売収入	5,293,990	1. 事業費 販売物購入費	3,634,011
2. 雑収入 自動販売機手数料 公衆電話手数料 預金利息	191,470 8,570 26	包装・宣伝費 通信運搬費	101,702 7,311
3. 繰越金 前年度繰越金	910,097	2. 人件費 給与	578,604
計	6,404,153	3. 租税公課費 法人税・消費税等	907,004
		4. 長期借入金 長期借入金返済	500,000
		計	5,728,632

第4章 平成14年度事業の概要

1 管 理 運 営

1. 運営協議会

福島県文化財センター白河館の運営に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画実施について審議するもので、委員は学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験から6名を委嘱している。

名 簿

岡田茂弘	東北歴史博物館館長（会長）
渡邊一雄	福島県考古学会会長（副会長）
齋藤邦光	西白河小中学校長連合協議会会長
	白河市立白河中央中学校校長
金子誠三	白河市文化財保護審議会会長
本木光史	独立行政法人国立少年自然の家 国立那須甲子少年自然の家所長
山崎京美	いわき短期大学助教授

会 議

平成14年度第1回運営協議会

日 時 平成14年8月2日（金）

場 所 福島県文化財センター白河館会議室

議 事

- ・福島県文化財センター白河館の運営状況について
- ・今後の課題と事業の展開方向について

平成14年度第2回運営協議会

日 時 平成15年3月14日（金）

場 所 福島県文化財センター白河館会議室

議 事

- ・福島県文化財センター白河館の運営状況について
- ・平成15年度年間事業計画（案）について

2. 出 版 物

- ・福島県文化財センター白河館年報2002（平成13年度開館以降の実績）
- ・福島県文化財センター白河館研究紀要2002
- ・まほろん通信（VOL.4～VOL.7）



まほろん通信

2 資料管理事業

1. 収蔵資料数一覧

(箱)

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	合 計
一 般 収 蔵 庫	35,901	2,331	783	498	39,513
特 別 収 蔵 庫	354				354
合 計	36,255	2,331	783	498	39,867

- * 1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱
* 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸出し

遺 物

(点)

日 付	貸 出 先	貸 出 目 的	資 料 名	数量
7月25日	笠懸野岩宿文化資料館	企画展「最古の磨製石器」	桧葉町大谷上ノ原遺跡出土石器	2
8月15日	喜多方市教育委員会	講座「土器どき体験教室」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	1
10月1日	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	企画展「律令国家の地方官衙」	泉崎村関和久遺跡出土土師器（墨書等）・須恵器・円面硯	6
			泉崎村関和久上町遺跡出土軒丸瓦・軒平瓦・灰釉陶器	4
			泉崎村関和久窯跡出土軒丸瓦	1
10月4日	三春町歴史民俗資料館	企画展「縄文土器の美」	三春町柴原A遺跡出土縄文土器	2
11月1日	福島県立博物館	常設展示	会津若松市一ノ堰B遺跡出土縄文土器	6
			会津坂下町能登遺跡出土縄文土器	6
1月28日	栃木県立博物館	企画展「とちぎの弥生土器―形と文様の美―」	会津若松市一ノ堰B遺跡出土縄文土器	9
2月9日	奥松島縄文村歴史資料館	企画展「いちばん派手な土器の時代―渦巻文様の縄文土器―」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器・土偶・石器等	29
4月9日	栃木県立博物館	企画展「氷河時代の狩人たち―旧石器時代の自然とくらし―」	白河市一里段A遺跡出土石器等	29
4月9日	川崎市市民ミュージアム	企画展「古代を考える I 郡の役所と寺院」	泉崎村関和久遺跡出土土師器（墨書等）・円面硯	8
			合 計	103

写 真

(点)

日 付	貸 出 先	貸 出 目 的	資 料 名	数量
4月16日	白河市歴史民俗資料館	常設展	白河市一里段A遺跡出土石器	1
4月18日	白河税務署	租税教育用副教材「平成14年度版 税金の話」掲載	まほろん施設全景	1
5月9日	株式会社 碧水社	「古代の都を復元する 第1巻」学習研究社刊掲載	白河軍団兵士2体（復元）	2
			野外展示「奈良時代の家」「かまど」	2
5月22日	財団法人 福島県教育会館	「夏休みの友 中1・中2版」掲載	まほろん施設全景	1
5月24日	白河地区経営者協会	「経協ニュース No.136」掲載	まほろん施設全景	1
			常設展示「暮らしをささえた道具たち」	1
			野外展示「縄文時代の家」	1
5月30日	株式会社 文溪堂	小学校社会科教材「社会テスト 福島県版4年」	野外展示「奈良時代の家」「奈良時代の米倉」	2
5月30日	原町市教育委員会	遺跡解説パンフレット「泉麿寺跡―遺跡が語る古代の原町」	野外展示「奈良時代の家」「奈良時代の米倉」「平安時代の製鉄炉」	3
			原町市大船迫A遺跡15号製鉄炉	1
6月5日	白河商工会議所	絵はがき「白河」	まほろん施設全景	1
6月27日	福島市教育委員会	宮畑遺跡副読本、福島市HP掲載	まほろん施設外観、常設展示室、体験活動	3
6月27日	白河商工会議所	絵はがき「白河」	野外展示「奈良時代の家」「奈良時代の米倉」	2
6月21日	福島県企画調整部	「平成14年度県勢要覧」表紙掲載	まほろん施設外観	1
			野外展示「縄文時代の家」	1
7月2日	福島県木材共同組合連合会	「ふくしま県産材」紹介パンフレット	まほろんプロムナードギャラリー	1
7月11日	株式会社 浜島書店	中学校歴史資料集「福島県地域の歴史を調べよう」	泉崎村関和久遺跡2号建物跡	1
7月12日	福島リビング新聞社	全国リビング新聞HP掲載	野外展示「縄文時代の家」	1
7月20日	財団法人 古代学協会	「古代文化」第54巻第10号掲載	須賀川市松ヶ作A遺跡全景、出土鉄器	5
7月25日	株式会社 佐藤総合計画	福島県建築文化賞応募	まほろん施設外観、常設展示室、プロムナードギャラリー	3
7月30日	群馬県笠懸野岩宿文化資料館	企画展図録「最古の磨製石斧」掲載	桧葉町大谷上ノ原遺跡出土石斧	2
7月30日	栃木県しもつけ風土記の丘資料館	企画展図録「律令国家の地方官衙」掲載	泉崎村関和久遺跡遠景・建物跡・溝跡・出土瓦	6
			野外展示「奈良時代の米倉」	1
8月6日	遺跡調査部	遺跡の案内人ボランティア登録前オリエンテーション	会津高田町鹿島遺跡遠景ほか	9
			大越町馬場平B遺跡全景ほか	2
			会津高田町鹿島遺跡全景ほか	4
8月10日	株式会社 近代建築社	月刊「近代建築」2002年9月号	まほろん施設外観、内観、常設展示室、一般収蔵庫	4
8月16日	株式会社 浜島書店	中学校歴史資料集「福島県地域の歴史を調べよう」	縄文時代の家づくり（プレイベント）	1
8月16日	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	企画展図録「土偶の神秘」	三春町柴原A遺跡出土土偶	1
9月6日	野馬追の里原町市立博物館	企画展図録「米づくり むかしの暮らしの中で」	相馬市大森A遺跡大足・馬鋏出土土状況	2
9月11日	株式会社 進和クリエイティブセンター	あぶくま高原道路開通式パンフレット	玉川村江平遺跡出土横笛（復元）ほか	3
9月17日	水沢市埋蔵文化財調査センター	特別企画展「甕れ アルティ」写真パネル等	多賀城へ向かう白河軍団兵士（復元）	1
9月26日	株式会社 雄山閣	「季刊 考古学」第81号	古墳時代の馬装・雲珠（復元）	1
10月3日	白河市役所	東京しらかわ会総会資料	まほろん施設全景	1
10月10日	原町市役所	「原町市史」古代・中世編	原町市長湊遺跡出土墨書土器	4

			原町市鳥打沢B遺跡出土墨書土器	1
			原町市大船迫A遺跡出土墨書土器	12
			富岡町上本町D遺跡出土墨書土器	3
			小高町北向A遺跡出土墨書土器	1
			鹿島町大迫遺跡出土墨書土器	7
			檜葉町鍛冶屋遺跡出土墨書土器	12
			泉崎村関和久遺跡出土墨書土器	20
			泉崎村関和久上町遺跡出土墨書土器	11
			いわき市大猿田遺跡出土木簡	9
			玉川村江平遺跡出土木簡	1
10月17日	白河税務署	白河地区税務団体協議会会報誌「協和」	まほろん施設外観	1
10月25日	株式会社 吉川弘文館	「古代地方木簡の研究」 平川南著	玉川村江平遺跡出土木簡	1
11月15日	朝日新聞 福島支局	「朝日新聞」福島版 特集・猪苗代湖	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器・大珠	4
12月20日	株式会社 小学館	「考古資料大観」第8巻 弥生・古墳時代 木・繊維製品	相馬市大森A遺跡出土馬鍬・田下駄ほか	12
12月25日	株式会社 佐藤総合計画	福島県建築文化賞講演会	まほろん施設外観、内観、常設展示室、一般収蔵庫、体験学習ほか	10
12月25日	株式会社 講談社	「再現 日本史」第97号 平安時代	白河軍団兵士2体（復元）	2
12月27日	神奈川県綾瀬市	「綾瀬市史」5 通史編 原始・古代	白河軍団兵士（復元）	1
1月25日	徳島市教育委員会	特別企画展図録「ヒスイに見せられて～縄文から弥生へ～」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土大珠	2
			石川町七郎内C遺跡出土大珠	3
1月25日	株式会社 小学館	「考古資料大観」第1巻 弥生・古墳時代 土器Ⅰ	会津若松市一ノ堰B遺跡出土弥生土器	9
			福島市孫六橋遺跡出土弥生土器	9
2月7日	会津高田町教育委員会	「油田遺跡（第1次）発掘調査概報」	須賀川市土取場B遺跡出土弥生土器	10
			会津高田町下谷ヶ地平A遺跡出土縄文土器	1
			会津高田町上冑A遺跡出土縄文土器	1
			会津高田町冑宮西遺跡8号住居跡、出土縄文土器	3
			会津高田町鹿島遺跡1号住居跡	1
2月7日	川崎市市民ミュージアム	企画展図録「古代を考えるⅠ 群の役所と寺院」	会津高田町北平遺跡出土縄文土器	1
			泉崎村関和久遺跡出土墨書土器	3
2月18日	奥松島縄文村歴史資料館	企画展リーフレット「いちばん派手な土器の時代―渦巻文様の縄文土器―」	野外展示「奈良時代の米倉」	1
2月18日	栃木県立博物館	企画展図録「氷河時代の狩人たち」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器・大珠	10
			新地町三貫地遺跡出土石器	1
			郡山市弥明遺跡出土石器	1
			白河市一里段A遺跡出土石器	2
3月21日	器ふじさき	器ふじさきwebサイトHP	檜葉町大谷上ノ原遺跡出土石器	1
3月21日	有限会社 おの印刷	観光案内	イベント土器野焼き	1
3月27日	株式会社 小学館	「考古資料大観」第3巻 弥生・古墳時代 土器Ⅲ	まほろん施設外観	1
			石川町殿畑遺跡出土土師器	1
			東村沢内古墳群出土土師器・須恵器	11
			国見町下入ノ内遺跡出土土師器・須恵器	20
			天栄村山崎遺跡出土土師器	9
			合 計	287

その他

(点)

日付	貸出先	貸出目的	資料名	数量
10月1日	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	企画展「律令国家の地方官衙」	泉崎村関和久遺跡出土瓦復元品	21
4月9日	栃木県立博物館	企画展「氷河時代の狩人たち―旧石器時代の自然とくらし―」	旧石器時代鹿肉のレプリカ	3
4月9日	川崎市市民ミュージアム	企画展「古代を考えるⅠ 郡の役所と寺院」	古代役人の仕事道具（刀子・硯・筆）	3
			合 計	27

3. 資料閲覧

遺物

(点)

No.	遺跡名	市町村名	資料名	数量
1	孫六橋遺跡	福島市	弥生土器	82
2	荒小路遺跡	郡山市	縄文土器	23
	堂平B遺跡	玉川村	縄文土器	2
	王子前遺跡	須賀川市	縄文土器	16
	中平遺跡	浪江町	縄文土器	3
	柴原A遺跡	三春町	縄文土器	5
	大森A遺跡	相馬市	縄文土器	3
3	法正尻遺跡	磐梯町・猪苗代町	石器	17
	角間遺跡	磐梯町	石器	14
	天光遺跡	磐梯町	石器	2
	中江聖の宮遺跡	新鶴村	石器	1
	小田口D遺跡	石川町	石器	5
	桑名邸遺跡	天栄村	石器	30
	弓手原A遺跡	福島市	石器	31

	獅子内遺跡	福島市	石器	33
	北向遺跡	郡山市	石器	5
	仲平遺跡	三春町	石器	6
	八方塚A遺跡	福島市	石器	15
	深田E遺跡	須賀川市	石器	1
	柴原A遺跡	三春町	石器	7
	八景腰巻遺跡	福島市	石器	4
	越田和遺跡	三春町	石器	1
	大富西畑遺跡	小高町	石器	6
	日向南遺跡	飯舘村	石器	37
	宮内A遺跡	飯舘村	石器	10
	上ノ台A遺跡	飯舘村	石器	67
	上ノ台B遺跡	飯舘村	石器	4
	上ノ台D遺跡	飯舘村	石器	26
4	一里段A遺跡	白河市	旧石器	360
5	鴨ヶ館跡	小野町	弥生土器	4
	本飯豊遺跡	小野町	弥生土器	11
	南入A・長瀬遺跡	鹿島町・原町市	弥生土器	14
6	辰巳城遺跡	玉川村	土師器	41
	正直A遺跡	郡山市	土師器	64
7	鬼渡A遺跡	会津坂下町	縄文土器他	229
	塩喰岩陰遺跡	西会津町	縄文土器他	540
	屋敷遺跡	会津若松市	縄文土器他	449
	松ヶ作A遺跡	須賀川市	縄文土器他	393
8	一ノ堰B遺跡	会津若松市	弥生土器	12
	落合遺跡	小野町	土師器	58
9	徳定A遺跡	郡山市	土師器	10
	徳定B遺跡	郡山市	土師器	2
	杉内B遺跡	石川町	土師器	1
	駒形A遺跡	郡山市	土師器・須恵器	2
	七斗蒔遺跡	白河市	土師器	1
10	関和久上町遺跡	泉崎村	瓦	44
11	猪倉B遺跡	相馬市	銅型・墨書土器他	139
12	上田郷VI遺跡	広野町	縄文土器	35
	鴨ヶ館跡	小野町	縄文土器	2
	小滝遺跡	小野町	縄文土器	60
	宮内A遺跡	飯舘村	縄文土器	98
13	法正尻遺跡	磐梯町・猪苗代町	縄文土器	10
	越田和遺跡	三春町	縄文土器	8
14	大猿田遺跡	いわき市	須恵器	200
	大久保F遺跡	いわき市	須恵器	28
15	一里段A遺跡	白河市	縄文土器	90
	馬場平B遺跡	大越町	縄文土器	134
	塩喰岩陰遺跡	西会津町	縄文土器	35
16	向田A遺跡	新地町	銅型	307
	山田A遺跡	相馬市	銅型	130
17	羽白D遺跡	飯舘村	縄文土器	60
	羽白C遺跡	飯舘村	縄文土器	21
18	獅子内遺跡	福島市	縄文土器	518
19	松ヶ平A遺跡	飯舘村	縄文土器	259
	仲ノ縄B遺跡	船引町	縄文土器	39
	上田郷VI遺跡	広野町	縄文土器	1,596
20	辰巳城遺跡	玉川村	須恵器	2
	正直A遺跡	郡山市	須恵器	11
	白山A遺跡	矢吹町	須恵器	2
	白山C遺跡	矢吹町	須恵器	2
	江平遺跡	玉川村	須恵器	4
21	向田A遺跡	新地町	銅型	307
	山田A遺跡	相馬市	銅型	130
22	松ヶ平A遺跡	飯舘村	縄文土器	324
	中ノ沢A遺跡	郡山市	縄文土器	52
	羽白C遺跡	飯舘村	縄文土器	92
	上ノ台C遺跡	飯舘村	縄文土器	36
	萩原遺跡	小高町	縄文土器	28
	延べ78遺跡		合 計	7,450

その他

(点)

No.	遺 跡 名	市 町 村 名	資 料 名	数 量
1	向田D遺跡	新地町	遺構図面	
	内沢遺跡	相馬市	遺構図面	
			合 計	

3 情報発信事業

1. ホームページによる情報発信

a アクセス数の推移

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は31,867件で、月平均2,655件のアクセス数となっている。平成13年度が月平均1,638件であったので、月平均1,000件のアクセスアップとなっている。

月別でみると5月～10月の夏場を中心とした時期がアクセス数が多い傾向である。

b 入力フォームの追加

月	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	2,506	17,276
5月	3,182	20,458
6月	2,905	23,363
7月	2,933	26,296
8月	3,261	29,557
9月	2,754	32,311
10月	2,688	34,999
11月	2,575	37,574
12月	2,068	39,642
1月	2,457	42,099
2月	2,265	44,364
3月	2,273	46,629

ホームページ月間アクセス数

2月に担当がCGI研修に参加し、同月入力フォーム系のコンテンツを追加した。

具体的には、ホームページの感想画面、団体利用問い合わせ画面、研修申し込み画面、の3画面である。

年度内に団体利用の問い合わせが3件、コメントが1件あった。

団体利用問い合わせフォーム画面

c リンク集の追加

12月から埋蔵文化財関係の団体にリンク集掲載の依頼を行い、1月に追加した。

リンク先は、当館の性格から、文化財関係の公的機関のサイトを中心としている。その内訳は、全国の埋蔵文化財センター39カ所、国の文化財関係機関7カ所、隣接県の博物館9カ所、考古学研究団体1カ所、福島県関係6カ所の合計62カ所となっている。

2. データベースによる情報提供

a アクセス数の推移

平成14年度のアクセス数を表2に示した。データベースの年間アクセス数は20,939件、月平均アクセス数は1,744件となっている。平成13年度の月平均アクセス数が1,557件であり、約200件程増加している。

月別のアクセス件数を見ると、ホームページのアクセス件数同様、夏場が多く、冬場が少ない傾向がある。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
遺跡	1,102	1,166	800	1,555	1,275	1,093
遺物	303	364	296	275	550	403
写真	289	521	369	441	519	579
合計	1,694	2,051	1,465	2,271	2,344	2,075
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遺跡	991	708	1,025	738	534	550
遺物	777	236	293	346	352	537
写真	373	323	237	264	282	473
合計	2,141	1,267	1,555	1,348	1,168	1,560

データベースアクセス数の推移

b データ入力

平成13年度に引き続き、5～2月までの10カ月間、完形品の土器・石器を対象とした遺物関係の写真撮影も白河館で実施した。撮影には一眼レフタイプのデジタルカメラ NikonD1を利用し、次年度にデータベースシステム上に組み込む予定である。

他には、白河館収蔵文献についても、入力を実施し、遺物写真と同様に次年度にデータベースシステムに組み込む予定としている。

3. 研究紀要

平成14年度3月末に2冊目の研究紀要を発行した。原稿と執筆者は以下である。

- ・三角縁神獣鏡の復元
 - 〔1〕復元の目指すもの（青山博樹）1
 - 〔2〕会津大塚山古墳出土三角縁神獣鏡の観察—三角縁神獣鏡製作技法の一例—（青山博樹）
 - 〔3〕三角縁神獣鏡復元研究—検証ループ法の実施—（鈴木 勉）
 - 〔4〕三角縁神獣鏡の鑄造実験（佐藤健二）



鏡の復元品と鑄型

- ・福島県玉川村江平遺跡出土横笛の復元研究
 - 〔1〕江平遺跡出土横笛について（森幸彦）
 - 〔2〕江平遺跡出土横笛の復元製作について（田中敏長・大橋彩子）



江平の笛とその他の笛

- ・楢葉町馬場前遺跡の調査成果
 - 〔1〕外縁地域の大木式土器（小暮伸之）
 - 〔2〕縄文石器に関する2・3の問題（門

協秀典）

- 〔3〕複式炉を伴う竪穴住居跡の規格（坂田由紀子）
- 〔4〕古代標葉郡の集落と仏教（宮田安志）
- 〔5〕木戸八幡神社と馬場前遺跡の中・近世遺構群（吉田秀享）



馬場前遺跡全景

- ・構造調査・クリーニングから得られた調査成果（1）（奥山誠義）
- ・文化財データベースについて—その2 遺物データベースについて—（藤谷 誠）

4. まほろん通信

平成14年度は4月15日、7月15日、10月15日、1月15日の4回発行した。発行部数は5,000部で、来館者に配布する他、県内の教育委員会、学校や全国の埋蔵文化財センターなどに送付している。

各号の内容は、以下となっている。

a まほろん通信 VOL 4

- ・館長講義「石器の属性分析について」
- ・体験学習（まほろんひな祭り）
- ・研修課より（時代別研修「古代陸奥国の考古学」について）
- ・総務管理課より（まほろんショップのご案内）
- ・第1回企画展速報展の案内
- ・シリーズ復元展示（三角縁神獣鏡の復元その4）
- ・今年度の行事予定
- ・まほろんからのお知らせ（「後期おでかけまほろん」募集）

b まほろん通信 VOL 5

- ・第1回目の土器野焼きの紹介
- ・体験学習（第2次「まほろん探検隊」発足）
- ・館長講演会後期分の案内
- ・まほろん夏のてんじ案内
- ・シリーズ復元展示（江平遺跡から出土した「横笛」の復元製作）
- ・研修課より（土坑調査研修の紹介）
- ・総務管理課より（昨年度のまほろん利用実績）
- ・まほろんからのお知らせ（団体利用申し込みについて）

c まほろん通信 VOL 6

- ・発掘体験ツアーの報告
- ・体験学習（石器づくり、ガラス玉づくりの紹介）
- ・開館1周年記念イベント報告
- ・まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財」案内
- ・シリーズ復元展示（福島県古墳時代象嵌資料の復元1）
- ・研修課より（体験学習研修の紹介）
- ・総務管理課より（バックヤードツアー：特別収蔵庫）
- ・まほろんからのお知らせ（年末・年始の休館日について）

d まほろん通信 VOL 7

- ・官衙遺跡研究研修の紹介
- ・体験学習（原始機織りに挑戦、古代グルメ祭の紹介）
- ・まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記一卷之二石背郡一」の案内
- ・シリーズ復元展示（福島県古墳時代象嵌資料の復元2）
- ・研修課より（専門考古学講座「東北地方ストーンサークルの系譜」の紹介）
- ・総務管理課より（まほろんの謎①）
- ・まほろんからのお知らせ（「おでかけまほろん」の案内）



1 回目の土器野焼きに挑戦

まほろんでは、今年度、粘土を使った実技講座や探検隊などの行事を5回ほど予定しています。その中の第1回目の土器の野焼きを5月25日（土）に行いました。

昨年度も野焼きを行いました。市販の粘土を何も混ぜずに使ったものはほとんどが割れてしまいました。そこで今年は、粘土選びから慎重に行い、郡山市の瓦屋さんから分けてもらった粘土に砂を多めに入れたものを使って作っています。

野焼きは、まほろん北側の臨時駐車場の一角で行い、午前9時から午後2時までの約5時間をかけて約30名ほどのみなさんと28個の土器を焼きました。まず火床を作り、周囲に土器を置いて回しながら徐々に温度を上げていきます。それから火床に入れ、周囲から時間をかけながら徐々に火を強め、最大火力にした後、自然に火の勢いがおさまるのを待って冷まします。今回は、炭素分の付着が多かったため再度火を入れてそれをとばしました。

火床から出る土器を取り出すと、割れているものはほとんどありません。粘土選別から野焼きまで慎重に行った結果、今回は成功のうちに終わることが出来ました。参加者のみなさんには焼きあがった土器の感触を楽しみながら、お待ち帰りいただきます。

本年度は、あと3回は土器の野焼きを行う予定です。

まほろんの実技講座で土器作りと野焼きにチャレンジしてみませんか。

まほろん通信 5号



「体験発掘ツアー」に行ってきました

みなさんご存じのように、まほろんは、「遺跡」から出土したもの—「遺物」—に親しんでいただく所です。ただ、「遺跡」自体はまほろんに持つことができませんから、遺跡の様子は模型でお見せしています。「それでは物足りない」、「実際に遺跡を掘ってみよう」という方々のために、年に一回体験発掘を実施しています。昨年に引き続き、今年も矢矧町教育委員会さんにお世話になりました。お邪魔したのは、岡野田遺跡という、縄文時代中ごろの遺跡です。これまでの調査で、竪穴住居跡や木の炭を貯めたと思われる大きな穴などがみついています。

8月31日の当日は、お天気にめぐまれました。岡野田遺跡の調査員さんから説明を受けた後、めいめい移動ゴチャを持って「遺物包（いぶつほう）」を掘りました。「遺物包（いぶつほう）」なんていうと難しくそうですが、言い換えれば首のゴミ捨て場です。岡野田遺跡は斜面にある遺跡で、斜面の下の方に当時の「燃えないゴミ」である、割れた縄文土器がたまっていました。土器を作るときに出る、鋭い石の破片もたくさん出てきました。珍しいところでは、魚を捕まえる網に取りつける、石でできたオモリもみつかりました。「燃えないゴミ」も時がたてば貴重な文化財です。参加者の皆さんは4千年ぶりに姿を表した土器や石器を手にとり、走って私たちに見せにきたり、感慨深げに見入ったりしていました。

まほろん通信 6号

5. 館長講演会

日 時	テ	ー	マ	参加人数
4月27日	考古学から見た日本の歴史「採る、狩る、漁る暮らし—旧石器文化・縄文文化—」			54
5月18日	考古学から見た日本の歴史「コメ作りからクニへ—弥生文化・古墳文化—」			40
6月22日	考古学から見た日本の歴史「いろいろな社会の展開—古代・中世・近世の文化—」			25
9月28日	考古学から見た世界の歴史「狩りと採集の暮らし—旧石器文化—」			35
10月26日	考古学から見た世界の歴史「農耕と牧畜の生活—新石器文化—」			30
11月23日	考古学から見た世界の歴史「都市の誕生、それから国へ—金属器文化—」			30

6. 文化財講座

日 時	テ	ー	マ	参加人数
7月27日	「旧石器時代のおはなし」			40
1月25日	「中・近世のおはなし」			25
2月22日	「木製品のおはなし」			20
3月15日	「弥生時代のおはなし」			18

参加者は218人である。

4 研 修 事 業

1. 研修事業実施の概要

平成14年度の研修は、4月23日の資料整理研修を皮切りに、入門研修8回、基礎研修6回、専門研修7回、特別研修3回を実施した。これらの期日指定の研修以外に、受講者の希望に応じて行う臨時館内研修を25回、職員派遣研修を20回実施している。平成14年度に研修を実施した日数は延べ146日、研修の

2. 研修事業実施の考え方

平成14年度の研修実施に当たっては、前年度の経験を生かしつつ、以下の研修事業の基本方針で臨んだ。①文化財保護に必要とされる技術の習得を目的とした研修を主とする。②①に関して、文化財保護の経験が少ない者を主たる対象者とし、それに沿った科目を設定する。③研修課職員を主たる講師とする。

区分	研 修 名	内 容	期 間	場 所
入 門 研 修	資料整理研修	遺物・図面・写真整理の基本の研修	4月23日～4月26日	館内
	測量研修	測量機器を正しく使うための研修	5月15日～5月16日	館内
	土坑調査研修	土坑の調査記録方法の研修	6月11日～6月14日	保原町
	入門考古学講座Ⅰ	考古学の基礎や福島各時代のに関する入門的な研修	7月6日	館内
	埋蔵文化財事務研修	埋蔵文化財事務を円滑に行うための研修	9月11日～9月12日	館内
	入門考古学講座Ⅱ	考古学の基礎や福島各時代のに関する入門的な研修	12月7日	館内
	土器実測研修	土師器・須恵器の観察と実測方法の研修	1月15日～1月17日	館内
	遺跡表面調査研修	表面調査の方法の研修	3月4日～3月7日	白河市
基 礎 研 修	石器実測研修	石器の観察と実測方法の研修	5月28日～5月31日	館内
	掘立柱建物跡調査研修	掘立柱建物跡の調査・記録方法の研修	7月9日～7月12日	塩川町
	試掘調査研修	試掘調査と遺跡範囲の決定の方法を学ぶ研修	10月8日～10月11日	白河市
	古墳墳丘調査研修	古墳の墳丘調査に関する調査方法や記録方法の研修	11月26日～11月29日	郡山市
	保存処理研修	金属・有機質遺物の保存処理の研修	2月4日～2月7日	館内
	報告書作成研修	見やすく分かりやすい調査報告書を作るための研修	2月19日～2月20日	館内
専 門 研 修	縄文土器実測研修	縄文土器観察の視点と、実測の理論と実際を学ぶ。	6月25日～6月28日	館内
	史跡整備のための研修	史跡整備のための調査・記録・事務手続きの研修	8月27日～8月29日	白河市
	特殊遺構調査研修	特殊遺構の調査・記録方法の研修	10月8日～10月11日	船引町
	専門考古学講座Ⅰ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	10月12日	館内
	官衙遺跡研究研修	官衙遺跡の特徴と調査の方法	11月12日～11月15日	館内
	時代別研修	時代別の専門的研修	12月11日～12月12日	館内
	専門考古学講座Ⅱ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	2月15日	館内
	体験学習研修	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	7月23日～7月26日	館内
特 別 研 修	教職員発掘調査研修	発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修	8月7日～8月9日	会津高田町
	無形の文化財研修	無形の文化財の基礎知識と調査方法概論	1月29日～1月31日	館内
	市町村職員長期研修	文化財行政担当者としての全般的な知識を学ぶ研修	臨時的	館内
	臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	臨時的	館内
	職員派遣研修	市町村等の要請によって随時、職員を派遣して行う研修	臨時的	館外

平成14年度文化財研修実施一覧

④外部講師を招き、文化財保護に資するため、最新の知識の修得を目的とした研修も開催する。⑤学校教育に文化財を活用するため、教員を対象とした研修も開催する。⑥受講者の希望に添って実施する特別研修の臨時館内研修と職員派請研修を適宜実施する。

3. 実 績

平成14年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も多いのは、市町村等で文化財の保護に携わっている職員で、全体の54.3%を占めている。次に多いのが教職員で29.3%、文化財関係の市民ボランティア等が6%、博物館等で社会教育に携わる学芸員は2.9%、その他学生が2%であった。市町村の文化財保護に携る職員は、専門的な知識が要求されるため、専門考古学講座や官衙研究研修・時代別研修などへの参加が多く、経験の浅い調査補助員や整理作業員は、入門考古学講座や土坑調査研修など基礎的な知識を取得する講座に参加する傾向がある。教職員の参加者は、前年度と同じく教職員発掘調査研修や新設の体験学習研修に多く見られた。教職員のニーズにあった研修と言うことができる。また、文化財に関わるボランティアの参加も見られ、市民の文化財への関心が高くなりつつあることを物語っている。

4. 研修実施状況

平成13年度行った期日指定の研修は、まほろん開館が7月だったため、16回であった。今年度は24回の期日指定の研修を実施した。

(1) 入門研修

入門研修は、前表に示したとおり資料整理・測量・埋蔵文化財事務・土器実測・遺跡表面調査の各研修と入門考古学講座を実施した。これらの研修のうち、今年度新しく実施した研修は以下のとおりである。

資料整理研修 発掘調査で出土した遺物や写真・実測図などの記録類は、速やかに公開できるように、適切な整理・保管がなされなければならない。この研修は、資料整理の方法や手順について、実習等をとおして習得す



教職員発掘調査研修のようす

る研修である。研修期間は4月23日から26日までの4日間とした。講師は研修課員が当たり、遺物の取り扱いや整理方法の実習、実測図や写真など記録類の整理手順や方法を研修した。

入門考古学講座 入門考古学講座は、年2回開催している。第1回は7月6日に講師は研修課員が当たった。7月6日に研修課員が「考古学の話」を演題に講義した。第2回は、12月7日に福島県立博物館の田中敏氏を講師に迎え、「福島県の弥生事情」を演題に講義を実施した。

(2) 基礎研修

基礎研修は、石器実測・掘立柱建物跡調査・試掘調査・古墳墳丘調査・保存処理・報告書作成の各研修を実施した。このうち、今年度はじめて実施した研修は、掘立柱建物跡調査研修・古墳墳丘調査研修の2つである。

掘立柱建物跡調査研修 掘立柱建物跡の調査で、建物跡が複数回造り替えられている場



入門考古学講座研修のようす

合、その重複関係を確認することはなかなか難しい。この研修では掘立柱建物跡の調査方法について学習する。今回は塩川町教育委員会で調査した内屋敷遺跡を実習地として、7月9日から12日までの4日間実施した。

古墳墳丘調査研修 古墳の墳丘調査に関する調査方法や記録方法について実習をとおして習得する研修である。今回は郡山市の大安場古墳を研修会場として、11月26日から29日までの4日間実施した。

(3) 専門研修

専門研修では、縄文土器実測・史跡整備・特殊遺構・官衙遺跡研究・時代別の各研修と専門考古学講座を実施した。新規の研修は、縄文土器実測研修・史跡整備研修・官衙遺跡研究研修である。

縄文土器実測研修 縄文土器の観察方法や実測図の作成手順の実際を研修した。研修期間は6月25日から28日の4日間で、館内で実施した。

史跡整備のための研修 史跡整備をこれから行おうとする市町村の文化財担当者を主に対象とし、史跡整備を行うための諸手続きや範囲確認などの発掘調査の実際を習得する研修である。今年度は白河市の下総塚古墳の調査現場を研修会場として、8月27日から29日の3日間実施した。

専門考古学講座 専門考古学講座は、考古学のより深い知識を得たいと考えている受講者を対象とした研修で、昨年度は藤本強館長



専門考古学講座研修のようす



体験学習研修のようす

を講師として実施している。今年度は講座を2回とし、1回目は盛岡大学の熊谷常正教授に「東北地方のストーンサークルの系譜」をテーマに講義を行っていただいた。2回目は藤本館長による「世界と日本の考古学研究史」をテーマに講座を実施した。1回目は10月12日に、2回目は2月15日にそれぞれ実施した。

官衙遺跡研究研修 この研修は奈良文化財研究所の山中敏史氏を講師に迎え、官衙遺跡の調査・研究の方法や、資料の分析方法などについて研修する講座である。今年は11月12日から15日の3日間、官衙遺跡の概説や発掘調査方法などについて、いわき市教育文化事業団の廣岡敏氏に「磐城郡衙」に関して、当館の荒木隆が県内の官衙遺跡調査の現状についてそれぞれ講義を行った。

(4) 特別研修

特別研修は、昨年度実施した教職員発掘調査研修、不定期の臨時館内研修・職員派遣研修・市町村職員長期研修に、体験学習研修と無形の文化財研修を新たに加えた。

体験学習研修 学校や公民館などで行う体験学習の指導者のために設けた研修である。文化財を教材として行う体験学習の方法を提案している。今年度は、学校が夏休みに入った直後の7月23日から26日の4日間で、「マイギリ」と「アンギン編み」の道具を身近な材料で作る方法や、教材としての使用方法を学習した。

無形の文化財研修 無形の文化財を取り扱

う市町村文化財担当者や民俗関係の資料館の学芸員を対象に新設した講座である。無形の文化財は年々伝承者が減少して、存続が難しい文化財も少なくない。このために、無形の文化財の映像記録を残そうとする試みが行われている。1月29日から31日の3日間行った研修では、デジタルビデオによる記録方法や、その整理方法について学んだ。

臨時館内研修 今年度は25回の臨時館内研修を実施し、延べ27名の人達が受講した。研修内容は、報告書作成に関わる研修がもっとも多く、ほかに遺物の写真撮影研修、石器の観察研修、土器の分類に関する研修などを実施した。

職員派遣研修 今年度は矢祭町岡野田遺跡の発掘調査に関わる研修をはじめとして20回の職員派遣研修を実施し、受講者は延べ45人である。発掘調査方法の研修では、ほかに白河市・船引町・塩川町の発掘調査現場に職員を派遣した。調査に関する研修以外では、会津高田町で遺物実測研修を実施した。

5. 今後の課題

昨年からの大きな課題として、定員に満たない講座の多いことが挙げられる。その原因については、予算の削減や文化財担当職員の減員、開発事業の減少にともなう埋蔵文化財の発掘調査の削減等々、社会的な問題が背景にあることは否めない。これらについての具体的な対応については本館では難しいが、研修内容の充実や資料の見直し、研修期間や案内方法の改善、適切な定員の検討等々、本館が今できるものについては、すでに調査・検討を進めている。また、随時館内研修の実績からは、器材の充実・講師の専門性の向上が、研修ニーズの掘り起こしに有益であることが窺われる。

5 体験学習事業

平成14年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下のとおりである。

1. 常時体験型

(1) 個人対応メニュー

体験活動室において、個人を対象に実施する体験学習である。平成13年度同様、ふたつのメニューを常時行い、2週間ごとに入れ替えた。

- | | |
|--------------|------------|
| ア. 勾玉づくり | イ. アンギン編み |
| ウ. カラー拓本 | エ. 土器にさわる |
| オ. 時代衣装を着る | カ. 石器を使う |
| キ. 火おこし | ク. ガラス玉づくり |
| ケ. クレヨン象嵌 | コ. 土器づくり |
| サ. 七夕短冊づくり | シ. 原始機 |
| ス. 昔のおもちゃで遊ぶ | セ. 貝輪づくり |



ガラス玉作りのようす

	内 容	実施日	参加者数
1	縄文土器づくり 1	4月20日	23名
2	縄文土器野焼き	5月25日	30名
3	投槍具づくり	6月15日	22名
4	石器づくり	7月20日	17名
5	ガラス玉づくり	8月17日	20名
6	縄文土器づくり 2	9月21日	30名
7	土師器づくり	10月19日	7名
8	縄文土器・土師器野焼き	11月9日	40名
9	原始機織り	11月25日	25名
10	凧づくり	12月21日	32名
11	土偶・土面づくり	1月18日	25名
12	土偶・土面野焼き	2月15日	35名
13	竹笛づくり	3月15日	21名

実技講座実施状況

ク～セは、平成14年度から新たに加えたメニューである。クは、低温で溶解するガラス棒をガスバーナーで溶かし、ガラス玉を作る。ケは、薄い石膏の板に好きな絵を彫込み、クレヨンを押し込んで絵を浮き立たせる。コは、粘土1kgを使って小さな土器を作った。サは、木簡を書く体験である。シは、弥生時代の機織り体験、スは年末・年始

に合わせ、ベーゴマやメンコ、たこ揚げ、おはじきなどで遊んだ。セは、ホタテとカキの貝殻を使い、腕輪を作る。

ク・コは材料費100円、他は無料で提供した。

(2) 団体対応メニュー

以下の体験メニューから選択してもらうこととした。

ア 勾玉づくり イ アンギン編み
ウ 火おこし エ 土器にさわる

常時体験型メニューの体験者数は13,486人で、平成13年度に比べ3,694人増加した。来館者に占める割合は約4割で、平成13年度に比べ1割程度増えている。

2. 募 集 型

(1) 実技講座

原始・古代の技術にふれる単発のプログラムである。実施日はおもに第3土曜日とした。いずれも定員20名で募集し、応募者多数の場合は抽選とした。「土師器づくり」が大きく定員割れしているのは、「土師器」という用語が難しく、一般に理解されなかったた

	内 容	実 施 日	参加者数
1	昔話を聞こう	5月5日	100名
2	体験発掘ツアー	8月31日	26名
3	古代グルメ祭り	10月13日	20名
4	餅つき大会	11月23日	21名

イベント実施状況

めと考えている。

(2) イベント

遺跡見学や年中行事にちなんだイベントを組んだ。実施日はおもに第1日曜日である。

①昔話を聞こう

当館ボランティア及び「白河市語りの会」の協力を得て実施した。

②体験発掘ツアー

矢祭町教育委員会の協力を得て、同町内

	訪 問 先	学年・科目	実施日	内 容	参加者数
1	喜多方市立慶徳小学校	6年生、社会	4月17日	火おこし	18名
2	福島市立佐原小学校	5, 6年生、社会	4月26日	土器にさわる、勾玉づくり	15名
3	南郷村立南郷第一小学校	6年生、社会	5月2日	土器にさわる	14名
4	いわき市立大野第一小学校	6年生、総合学習	9月3日	土器にさわる、勾玉づくり	16名
5	郡山市立中野小学校	5, 6年生、社会	9月4日	土器にさわる、火おこし	9名
6	三春町立要田中学校	3年生、社会・美術	10月9日	火おこし	25名
7	都路村立都路第二中学校	2年生、社会	11月27日	勾玉づくり、火おこし	22名

おでかけまほろん実施状況

	内 容	実 施 日	参加者数
1	縄文土器づくり(小)	5月11～12日	17名
2	縄文土器づくり(大)	6月8～9日	17名
3	縄文土器野焼き	7月13日	16名
4	石器づくり1	8月10日	17名
5	石器づくり2	9月14日	15名
6	縄文料理とお泊まり会	10月5～6日	15名

まほろん探検隊実施状況

の岡野田遺跡で実施した。縄文時代後期の遺物包含層を、体験発掘した。

③古代グルメ祭り

古代グルメ祭のメニューは、「イノシシ鍋」、「サケ鍋」、「ドングリクッキー」、「クルミとハチミツのおしるこ」などである。その他に、牛乳を煮詰めた「蘇」が好評であった。

④餅つき大会

昨年同様、「奈良時代の家」のカマドを使用してモチ米を蒸し、復元した臼と杵を用いてついた。鏡餅もつくり、常設展示室の復元家屋に飾った。

(3) まほろん探検隊

平成14年度は、5月から11月まで、毎月第2土曜日に実施した。メンバーは年度を通して固定で、15名の定員に対し、17名の応募があった。活動内容は、縄文時代に関するものとした。まず、食器になるような小型の土器と、煮炊きに使用する深鉢を製作した。第4回は黒曜石の原石を割って剥片を取るところまで、第5回はその剥片から石鏃を製作した。最終回は、製作した土器を使って縄文料理をつくった。

3. 館外体験学習支援事業

通称「おでかけまほろん」という事業である。平成14年度は、4～7月の前期に3回、9～2月の後期に4回の計7回実施した。前期に9団体、後期には7団体から申し込みが

あり、抽選となった。

6 常設展事業

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉〈古墳時代〉
〈弥生時代〉〈縄文時代〉〈旧石器時代〉
〈生と死〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー 〈話題の遺跡〉
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「しらかわ歴史名場面」
- ⑨映像展示「ふくしまの文化財—いのちのかたち」

(2) 展示替え

平成14年度は、以下のコーナーにて大幅な展示替えを行った。内容及び展示資料は表の通りである。

◆遺跡を掘る—話題の遺跡(「話題の遺跡」コーナー展示替え資料一覧表)

◆みんなの研究ひろば(「みんなの研究ひろば」展示資料一覧表)

◆しらかわ歴史名場面(「しらかわ歴史名場面」展示資料一覧表)

(3) 資料貸出

常設展示資料である模型・レプリカの貸出件数は1件である。

◆文化庁等主催全国巡回展「発掘された日本列島2002」出展のため、玉川村江平遺跡出土横笛復元品2点を実物資料と共に14年6月11日～平成15年3月4日まで(財)かながわ考古財団へ貸し出した。

(4) 展示資料の損壊等

常設展示は、来館者の観察しやすさと親近感を考慮し露出展示を多用している。そのため手が届く範囲に資料があり、損壊の危険性も孕んでいる。レプリカ・復元品の損壊は昨年度と比較すると若干増加傾向にある。団体の場合は少なく、土・日の一般来館者観覧後に損壊が発見されることが多い。しかしながら、状況から判断すると故意に損壊したものではなく、触れてみたいという興味からなされた偶発的な損壊がほとんどであると考えられる。今年度の発生比率は来館者ほぼ1,300人に1件という割合である。また、資料劣化による損壊というケースが出て来つつある。

◆めぐみの森

植物造形物の内、手の届く範囲にあるクマ

展示期間	タイトル	資料名	点数	所蔵者
020401～020609	矢吹町弘法山古墳群	弘法山横穴墓群出土土師器	2	福島県教育委員会
		弘法山横穴墓群出土須恵器	3	
		弘法山5号横穴墓出土象嵌入直刀	1	
		弘法山横穴墓群出土直刀	2	
		弘法山横穴墓群出土鉄鏃	7	
		弘法山7号横穴墓出土刀子	1	
020401～020609	玉川村江平遺跡の奈良時代の横笛	江平遺跡出土「笛」	1	
		江平遺跡出土「笛」レプリカ	1	
020610～030331	白河市内出土「文字を記した土器」	白河市前桜岡遺跡出土「昌」墨書土器	8	白河市教育委員会
		白河市前桜岡遺跡出土「田上」墨書土器	1	
		白河市上根田ケ入遺跡出土「大」墨書須恵器	1	
		白河市上根田ケ入遺跡出土墨書土器「大家」「下家」「大」「太」	4	
		白河市上根田ケ入遺跡出土「大」刻書土器	1	

「話題の遺跡」コーナー展示替え資料一覧

ザサの折損が7件ほどあった。

◆暮らしのうつりかわり

各時代の食物レプリカの接着部分を剥がし取る損壊が10件ほどあったが、盗難は無い。

◆暮らしをささえた道具たち

触れるコーナー展示中の復元品の内、石斧1点が折損した。

製鉄模型の樹木の折損及び下草や樹木の葉をむしられることが数件あった。

古墳時代の馬具を装着した馬の模型は希望者に「乗馬」体験をさせているが、鞍の鞍骨と居木を接合している革紐が劣化のため断裂した。

◆遺跡を掘る

発掘調査模型の折損が3件あった（人物及び一輪車、物干竿）。折り取られた当該部分は模型ベース上にそのまま放置されていた。

(5) メンテナンス

平成14年3月18日に常設展造形・造作物のメンテナンスを(株)乃村工藝社に、AV機器メンテナンスを(株)エイブイセンターに委託して

行った。内容は以下の通りである。

・造形物の清掃作業

「めぐみの森」の植物造作、「暮らしのうつりかわり」各時代ブースの清掃を行った。

・造形物の修復作業

前項(4)に記した損壊部分の修復を行った。

・造作物の修復

「暮らしのうつりかわり」各時代ブースの壁面及び床面素材の乾燥・収縮は少なくなったが、部分的に亀裂や隙間が生じたことから、当該部分の修復を行った。

・展示什器のメンテナンス

来館者の靴先などによって、「クイズ福島歴史発見」のパソコン台什器はかま部分合板の剥離が著しくなったため、当該部分に樹脂カバーを取り付けた。

展示ケースの電球交換を行った。

・展示機器のメンテナンス

「映像ふくしまの文化財—いのちのかたち—」4面マルチ機器の調整を行った。特に以上は認められなかった。

展示期間	タイトル	資料名	点数	氏名
020401～030331	菊地鐵夫さんの縄文時代石器研究	菊地鐵夫採集石器	1	菊地鐵夫 (福島市) 会社員
		研究ファイル	1	
		昭和29年11月17日新聞	1	
		菊地鐵夫氏紹介パネル	1	
020401～030331	渡部久子さんの縄文時代髪型研究	三島町荒屋敷遺跡土偶「髪型」	1	渡部久子 (会津若松市) 美容師
		埼玉県後谷遺跡土偶「髪型」	1	
		青森県三内丸山遺跡土偶「髪型」	1	
		渡部久子氏紹介パネル	1	
020401～030331	鈴木彩香さんの勾玉研究	勾玉製作実験資料	1	鈴木彩香 (白河市) 関辺小学校 5年生
		勾玉研究経過写真等	1	
		「阿武隈川でメノウをみつけよう」研究ファイル	1	
		採集鉱物等標本	1	
020401～020510	鈴木綾さんの古代米研究	「古代米をそだててみよう！～古代米作り にちょうせん！」研究ファイル	1	鈴木 綾 (浅川町) 里白石小学校 4年生
		稲束	1	
		鈴木綾さん紹介パネル	1	
020510～030331	鈴木綾さんの古代米研究 Part 2	「古代米をそだててみよう！～古代米作り にちょうせん！」研究ファイルⅡ	1	鈴木 綾 (浅川町) 里白石小学校 5年生
		稲束 (H13栽培「むらさき米」)	1	
		粳 (H13栽培「むらさき米」)	1	
		稲束 (H14栽培「赤米」)	1	
		緑豆 (H14栽培)	1	
		脱穀に使ったこきばし	1	

「みんなの研究ひろば」展示資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所蔵者
020401～020525	玉川村江平遺跡の木簡	江平遺跡出土「木簡」	1	福島県 教育委員会
		江平遺跡出土「木簡」レプリカ	1	
020331～020609	白河市内出土 文字を記した土器	白河市前桜岡遺跡出土「昌」墨書土器	8	白河市 教育委員会
		白河市前桜岡遺跡出土「田上」墨書土器	1	
		白河市上根田ヶ入遺跡出土「大」墨書須恵器	1	
		白河市上根田ヶ入遺跡出土墨書土器 「大家」「下家」「大」「太」	4	
		白河市上根田ヶ入遺跡出土「大」刻書土器	1	
020609～020331	古墳時代の祭祀遺跡 表郷村の「建鉾山」	三森遺跡採集石製模造品（紡錘車）	1	渡辺 啓 （表郷村）
		三森遺跡採集石製模造品（白玉）	3 連	
		三森遺跡採集石製模造品（勾玉）	4	
		三森遺跡採集石製模造品（斧形）	11	
		三森遺跡採集石製模造品（鎌形）	5	
		三森遺跡採集石製模造品（刀子形）	8	
		三森遺跡採集石製模造品（剣形）	74	
		三森遺跡採集石製模造品（有孔円板）	95	
020609～020331	古墳時代の祭祀遺跡 表郷村の「建鉾山」	三森遺跡採集石製模造品（不整形有孔板）	35	表郷村 教育委員会
		三森遺跡出土 土師器（高杯・杯・甕など）	29	
		三森遺跡出土 須恵器（椀・高台付杯など）	4	
		三森遺跡出土 石製品（紡錘車・砥石）	2	
		三森遺跡出土 金属製品（鉄製品・銅滓など）	25	
		三森遺跡出土 石製模造品（馬形・剣形など）	67	
		三森遺跡採集 石製模造品（公民館保管分）	14	

「しらかわ歴史名場面」展示資料一覧

「クイズ福島歴史発見」のパソコンフリーズ、プリンター異常が、混雑時期に集中して発生した。その都度リース会社に修理を依頼したが、お盆の後半期には業者が休暇のため2日に亘り停止状態が発生した。

7 企画展事業

本年度の企画展事業のうち企画展は館外施設での巡回展を含め、合計5回の企画展を開催した。当館の特別展示室で開催した企画展は、速報展・特別展・指定文化財展・収蔵資料展の種類があり、季節毎順にそれぞれ「春」・「夏」・「秋」・「春」のてんじと呼んでいる。2回目の春のてんじは年度をまたがり、次年度5月まで開催した。

また当事業に位置づけられている復元研究

は古代の出土鋳型に基づく鋳造鉄製品の復元と江平遺跡出土竹笛の復元製作を行った。以下、当事業の概要について記載する。

1. まほろん春のてんじ

「いにしえの隈畔人のくらし」

平成14年4月27日～5月26日

趣旨 福島県中通りを北に流れる阿武隈川は古来より、生業や舟運など多くの面で私達のくらしを支えてきた。一方で洪水などの災害を引業などにより、阿武隈川に直面する自然堤防や段丘上に立地する遺跡の内容が明らかになってきた。なかでも縄文時代と古墳時代に大規模な遺跡が形成されていることが判明した。

当企画展は、県内8町市からの未報告資料

種別	会場	会期	開催日数	観覧者数	備考
速報展	当館	H14・4・27～H14・5・26	26	4350	
特別展	当館	H14・7・27～H14・9・1	32	5910	
指定文化財展	当館	H14・10・26～H14・11・24	26	3251	
収蔵資料展	当館	H15・3・8～H15・3・31	20	1437	次年度まで継続開催。来観者数は14年度分
巡回展	野馬追の里原町市立博物館	H14・4・21～H14・6・23	55	2186	野馬追の里原町市立博物館と共催
	福島県歴史資料館	H14・8・3～H14・8・18	14	418	「もっと知ろう福島の遺跡」展と同時開催
			173	17552	

企画展の記録

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
1	小型深鉢	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	446－9
2	深鉢	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	S I 23（敷石埋設1）
3	深鉢	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	S M22
4	深鉢	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	S K 329
5	深鉢	二本松市	岩 崎	縄文	二本松市教育委員会	S M43
6	深鉢	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	S I 152
7	深鉢	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	S K 232
8	深鉢	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	S M49
9	深鉢	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	S M06
10	深鉢	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	S M60
11	注口土器	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	遺物包含層
12	注口土器	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
13	注口土器	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
14	注口土器	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
15	注口土器	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
16	注口土器	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
17	注口土器	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
18	小型壺	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
19	小型壺	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
20	小型壺	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
21	小型壺	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
22	壺	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
23	壺	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
24	壺	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
25	小型深鉢	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
26	台付き土器	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
27	台付き皿	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
28	顔付き浅鉢	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
29	中型深鉢	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
30	深鉢	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	幼児の歯出土
31	深鉢	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
32	深鉢	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	
33	深鉢	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	
34	深鉢	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	

「まほろん春のてんじ」展示資料一覧（見つめてみよう土器の表情）

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
1	耳栓	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	持ち出しNO 7
2	小玉	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	3 点
3	勾玉	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	2 点
4	耳栓	二本松市	岩 崎	縄文	二本松市教育委員会	E 34 G 出土
5	水晶玉	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	
6	小玉	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	
7	管玉	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	
8	耳環	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	写真番号14
9	耳環	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	写真番号26
10	耳環	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	写真番号35
11	耳環	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	写真番号43
12	耳環	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	阿武隈右岸12 151図
13	耳環	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	図版54－9
14	管玉	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	図版58
15	勾玉	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	図版74－7
16	勾玉	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	図版522
17	耳栓	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	大
18	耳栓	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	大

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
19	耳栓	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	小
20	耳栓	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	小
21	土製玉	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	8点一括
22	耳栓	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	
23	耳栓	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	
24	耳栓	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	
25	ペンダント型土製品	郡山市	馬場小路	縄文	郡山市教育委員会	
26	管玉	須賀川市	ハツ木	古墳	須賀川市教育委員会	
27	小玉	須賀川市	ハツ木	古墳	須賀川市教育委員会	S I 03出土一式

「まほろん春のてんじ」展示資料一覧（いにしへの装い）

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
1	ミニチュア石斧	福島市	宮畑	縄文	福島市教育委員会	6点
2	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 115（原石）
3	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 115（原石）
4	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 84（原石）
5	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（粗割）
6	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（粗割）
7	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（粗割）
8	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（粗割）
9	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（粗割）
10	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（粗割）
11	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（面取り）
12	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（面取り）
13	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（面取り）
14	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（面取り）
15	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（面取り）
16	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 30（面取り）
17	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 218（研磨）
18	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 182（研磨）
19	石製紡錘車	本宮町	北ノ脇	古墳	本宮町教育委員会	S I 54（研磨）
20	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 218（穿孔）
21	石製紡錘車	本宮町	北ノ脇	古墳	本宮町教育委員会	S I 14（完成品）
22	石製紡錘車	本宮町	北ノ脇	古墳	本宮町教育委員会	S I 24（完成品）
23	石製紡錘車	本宮町	北ノ脇	古墳	本宮町教育委員会	S I 97（完成品）
24	石製紡錘車	本宮町	北ノ脇	古墳	本宮町教育委員会	S I 103（完成品）
25	石製紡錘車	本宮町	北ノ脇	古墳	本宮町教育委員会	S I 182（完成品）
26	石製紡錘車	本宮町	百目木	古墳	本宮町教育委員会	S I 202（完成品）
27	石製紡錘車	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	図版338（完成品線刻あり）

「まほろん春のてんじ」展示資料一覧（工人の技）

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
1	岩版	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	大
2	岩版	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	小
3	小型壺	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	持ち出しNO37
4	動物形土製品	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	持ち出しNO20
5	土偶	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	持ち出しNO13
6	土冠	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	持ち出しNO6
7	スタンプ形土製品	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	持ち出しNO24
8	スタンプ形土製品	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	実NO9
9	石棒	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	実NO3
10	石棒	福島市	宮 畑	縄文	福島市教育委員会	入力NO240
11	土偶	二本松市	岩 崎	縄文	二本松市教育委員会	顔のみ
12	土偶	二本松市	岩 崎	縄文	二本松市教育委員会	
13	石製模造品	本宮町	高 木	古墳	本宮町教育委員会	
14	土偶	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	S S 45

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
15	土偶	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	S S 60
16	土偶	本宮町	高 木	縄文	福島県教育委員会	遺物包含層
17	六鈴鏡型土製品	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	図版490
18	土製鏡模造品	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	図版522
19	土偶	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	顔のみ
20	土偶	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	上半身
21	土偶	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	顔なし
22	土偶	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	上半身
23	土偶	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	上半身
24	土偶	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	顔のみ
25	土版	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	大
26	土版	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	中
27	土版	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	小
28	スタンプ形土製品	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
29	スタンプ形土製品	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
30	スタンプ形土製品	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
31	スタンプ形土製品	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
32	スタンプ形土製品	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
33	スタンプ形土製品	郡山市	町 B	縄文	郡山市教育委員会	
34	土製玉	白河市	舟田中道	古墳	白河市教育委員会	6 点
35	土師器甕	白河市	舟田中道	古墳	白河市教育委員会	
36	石製模造品	白河市	舟田境	古墳	白河市教育委員会	6 点

「まほろん春のてんじ」展示資料一覧（いにしへの祭祀）

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
1	須恵器フラスコ形長頸瓶	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版70－1
2	須恵器長頸瓶	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版70－2
3	須恵器杯	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版70－3
4	須恵器杯	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版70－4
5	須恵器杯	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版70－5
6	須恵器鉢	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版70－7
7	須恵器甕	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版69－6
8	須恵器甕	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版69－7
9	土師器杯	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版69－1
10	土師器杯	保原町	大泉みずほ	古墳	保原町教育委員会	大泉みずほ遺跡発掘調査報告書図版69－2
11	土師器杯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版369－2
12	土師器杯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版369－5
13	土師器杯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版369－6
14	土師器杯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版369－11
15	土師器杯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版369－16
16	土師器高杯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版369－20
17	土師器高杯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版370－3
18	土師器鉢	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版370－5
19	土師器鉢	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版370－10
20	土師器甕	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版371－2
21	土師器甕	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版371－4
22	土師器甗	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版372－1
23	土師器甕	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版372－3
24	土師器甕	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版373－2

「まほろん春のてんじ」展示資料一覧（古墳の土器と家の土器）

番号	資 料 名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備 考
1	人体文土器	飯野町	和 台	縄文	飯野町教育委員会	
2	円面硯	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版225
3	須恵器はそう	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版496
4	須恵器長頸瓶	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版498
5	須恵器瓶	本宮町	高 木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版520

番号	資料名	市町村名	遺跡名	時代	所蔵者	備考
6	須恵器蓋	本宮町	高木	古墳	福島県教育委員会	報告書図版212-10
7	須恵器身	本宮町	高木	古墳	福島県教育委員会	阿武隈右岸須恵器集成(1)記載
8	須恵器高杯	本宮町	高木	古墳	福島県教育委員会	阿武隈右岸須恵器集成(2)記載
9	須恵器瓶	本宮町	高木	古墳	福島県教育委員会	阿武隈右岸須恵器集成(3)記載
10	須恵器甕(取っ手付)	本宮町	高木	古墳	本宮町教育委員会	
11	ミニチュア石棒	郡山市	馬場中路	縄文	郡山市教育委員会	5点
12	石棒	郡山市	町B	縄文	郡山市教育委員会	

「まほろん春のてんじ」展示資料一覧(きわだつ逸品)

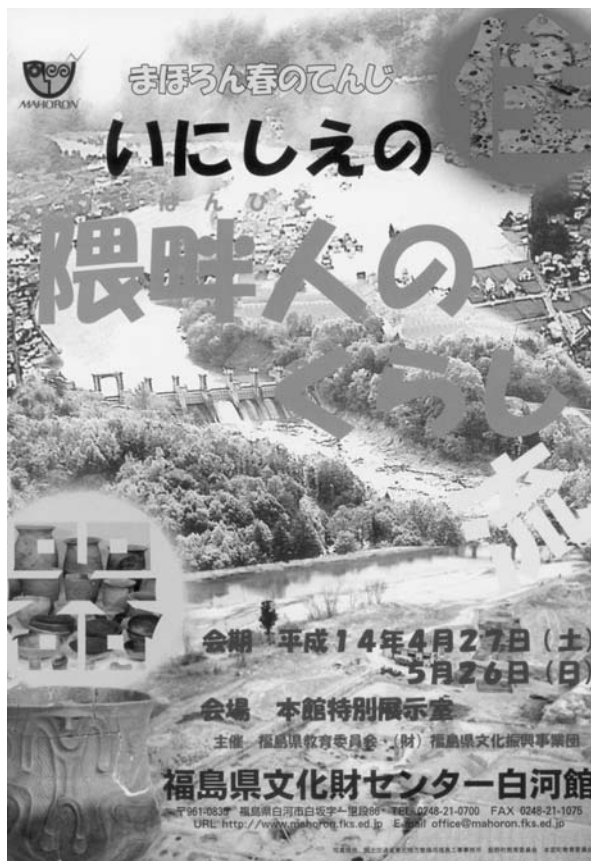
を集めた速報展という位置づけで、各遺跡の内容を以下のテーマで紹介するものである。

なお、タイトルにある「隈畔」は阿武隈「隈」川の河「畔」という意味である。

展示内容

- 1 みつめてみよう土器の表情
- 2 いにしへの装い
- 3 工人の技
- 4 いにしへの祭祀
- 5 古墳の土器と家の土器
- 6 きわだつ逸品

※展示資料は別表のとおりである。



まほろん春のてんじポスター

2. まほろん夏のてんじ

「弘法山のよこあな—古代ガラスと象嵌の世界—」

平成14年4月27日～5月26日

趣旨 福島県矢吹町弘法山古墳群は阿武隈川を望む台地の崖面に作られた古墳時代後期の横穴墓群である。1998年の発掘調査で、8基の未盗掘の横穴墓が調査され、主な副葬品として武器刀剣類と玉の装身具がある。装身具はガラス玉が主体で約600点出土している。また象嵌刀装具の付いた大刀も注目される資料である。

昨年度の復元研究製作では、弘法山古墳出土象嵌大刀の復元をテーマに、合わせて県内の古墳時代象嵌資料の復元製作も行った。

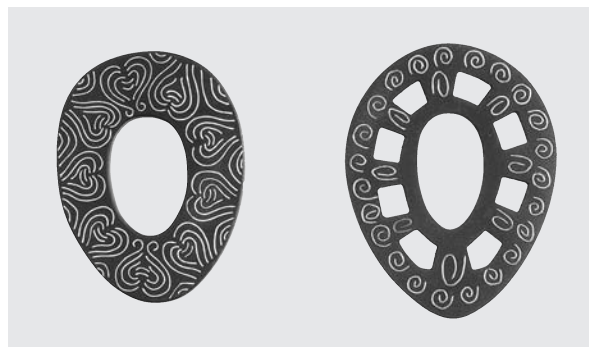
この企画展では上記の復元成果品とともにガラス玉に注目して、弘法山古墳群の調査成果を公開する。比較資料として、ガラス玉の製作や金工に関わる資料を全国各地から展示



「まほろん春のてんじ」展示室のようす



弘法山古墳群柄頭復元品



跡見塚古墳・八幡横穴鍔復元品

展 示 品		出 土 地	点数	時代・時期	所 蔵 者	備 考
1 弘法山古墳群の調査成果	1 崖上の墳丘から出土した土器	1号墳	21	7世紀	福島県教育委員会	
	2 土師器杯	1号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	3 須恵器長頸瓶破片	1号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	4 須恵器提瓶破片	1号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	5 鉄製刀子	1号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	6 鉄製鎌	1号横穴前庭部	4	7世紀	福島県教育委員会	
	7 鉄製鍔	1号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	8 玉の首飾り	1号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	9 玉の首飾り	1号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	10 大刀	1号横穴玄室	3	7世紀	福島県教育委員会	
	11 小刀	1号横穴玄室	3	7世紀	福島県教育委員会	
	12 鉄製鍔	1号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	13 土師器甕破片	1号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	14 古代のナイフ	2号横穴前庭部	2	7世紀	福島県教育委員会	
	15 耳飾	2号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	16 須恵器壺	2号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	17 須恵器甕破片	2号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	18 土師器甕破片	2号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	19 玉の首飾り	2号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	20 玉の首飾り	2号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	21 須恵器破片	3号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	22 ガラス玉	3号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	23 古代のナイフ	3号横穴玄室	2	7世紀	福島県教育委員会	
	24 ガラス玉	3号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	25 鉄の矢じり	4号横穴玄室	4	7世紀	福島県教育委員会	
	26 鞘と小刀	4号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	27 ガラス玉	5号横穴前庭部	2	7世紀	福島県教育委員会	
	28 須恵器杯	5号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	29 耳飾	5号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	30 土師器杯	6号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	31 長い刀	6号横穴玄室	2	7世紀	福島県教育委員会	
	32 短い刀	6号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	33 古代のナイフ	6号横穴玄室	2	7世紀	福島県教育委員会	
	34 弓の飾り金具	6号横穴玄室	3	7世紀	福島県教育委員会	
	35 耳飾	6号横穴玄室	2	7世紀	福島県教育委員会	
	36 須恵器甕	7号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	37 須恵器壺破片	7号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	38 土師器壺	7号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	39 遺体のそばに置かれた土器	7号横穴玄室	4	7世紀	福島県教育委員会	
	43 短い刀	7号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	44 古代のナイフ	7号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	45 矢じり	7号横穴玄室	6	7世紀	福島県教育委員会	
	46 玉の首飾り	7号横穴玄室	2	7世紀	福島県教育委員会	

	展 示 品	出 土 地	点数	時代・時期	所 蔵 者	備 考
1 弘法山古墳群の調査成果	47 須恵器破片	8号横穴前庭部	3	7世紀	福島県教育委員会	
	48 矢じり	8号横穴前庭部	6	7世紀	福島県教育委員会	
	49 紡錘車のはずみ車の切断品	8号横穴前庭部	1	7世紀	福島県教育委員会	
	50 玉の首飾り	8号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	51 長い刀	8号横穴玄室	3	7世紀	福島県教育委員会	
2 いにしへのガラス玉作り	52 切羽	8号横穴玄室	1	7世紀	福島県教育委員会	
	53 古代のナイフ	8号横穴玄室	3	7世紀	福島県教育委員会	
	54 ガラス埴塼	奈良県飛鳥池遺跡	1	7世紀	奈良文化財研究所	
	55 ガラス埴塼蓋	奈良県飛鳥池遺跡	1	7世紀	奈良文化財研究所	
	56 ガラスの原料	奈良県飛鳥池遺跡	10	7世紀	奈良文化財研究所	
	57 ガラス勾玉の鋳型	大阪府東奈良遺跡	2	弥生時代	茨木市教育委員会（原資料 文化庁 国重要文化財）	
	58 ガラス玉と製造時の滓	奈良県南郷角田遺跡	1	5世紀	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	
	59 ガラス勾玉石製鋳型	京都府芝ヶ本遺跡	1	4世紀	向日市教育委員会	
	60 ガラス勾玉土製鋳型	京都府芝ヶ本遺跡	1	4世紀	向日市教育委員会	
	61 ガラス小玉鋳型	東京都北区豊島馬場遺跡	3	4世紀	北区飛鳥山博物館	
	62 ガラス玉鋳型	千葉県鶴ヶ岡1号墳	2	5世紀	木更津市教育委員会	
	63 ガラス玉	千葉県鶴ヶ岡1号墳	10	5世紀	木更津市教育委員会	
	65 玉の首飾り	白河市郭内横穴	1	7世紀	白河市教育委員会	
	66 巻き付け技法のガラス玉	矢吹町弘法山古墳群1号横穴	1	7世紀	福島県教育委員会	
	67 青色と緑色のガラス玉	須賀川市早稲田古墳群	8	7－8世紀	福島県教育委員会	
	68 黄色のガラス玉	河東町駒板新田横穴	1	7世紀	福島県教育委員会	
	69 金箔を貼り付けたガラス玉	岩手県江釣子古墳群長沼3号墳	1	8世紀	北上市教育委員会	
	70 色とりどりのガラス玉	奈良県藤ノ木古墳	30	6世紀	文化庁（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）	国重要文化財
	71 ガラス丸玉	奈良県藤ノ木古墳	10	6世紀	文化庁（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）	国重要文化財
	72 ガラス足玉	奈良県藤ノ木古墳	10	6世紀	文化庁（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）	国重要文化財
3 弘法山象嵌大刀を復元する	73 白い玉を象嵌した土偶	北海道鮎川洞窟遺跡	1	縄文時代	国立歴史民俗博物館	
	74 渦巻きの象嵌	須賀川市早稲田古墳群	1	7世紀	福島県教育委員会	
	75 馬の象嵌	熊本県江田船山古墳	1	5世紀	群馬県立歴史博物館蔵	
	76 銅の文字象嵌	兵庫県箕谷2号墳	1	7世紀	国立歴史民俗博物館（原資料 文化庁 国重要文化財）	
	77 心葉文の象嵌大刀	東京都高倉古墳群	1	6世紀	府中市郷土の森博物館	
	78 炎のような象嵌	東京都大田区久ヶ原横穴群	1	7世紀	大田区立郷土博物館	
	79 三角と唐草の象嵌	奈良県岡峯古墳	1	6世紀	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	
	80 象嵌？・鐙	宮城県色麻古墳群	1	7世紀	東北歴史博物館	
	81 顔のような象嵌	宮城県鷹ノ巣古墳群	1	6世紀	白石市教育委員会（東北歴史博物館）	
	82 象嵌鐙	宮城県上蟹沢古墳	1	7世紀	白石市教育委員会（東北歴史博物館）	
	83 うろこのような象嵌	宮城県住辻遺跡	1	7世紀	角田市教育委員会	
	84 象嵌環頭柄頭	宮城県台町古墳群	1	5－6世紀	個人	
	85 象嵌環頭大刀	山形県大之越古墳	1	5世紀	山形県立博物館	山形県指定文化財
	86 円頭柄頭の製作工程		7		福島県教育委員会	
	87 象嵌大刀	矢吹町弘法山古墳群5号横穴	1	7世紀	福島県教育委員会	
	88 象嵌大刀復元品	矢吹町弘法山古墳群5号横穴	1	7世紀	福島県教育委員会	
	89 象嵌の工程		3		福島県教育委員会	
	90 象嵌鐙と復元品	岩瀬村跡見塚古墳	1	7世紀	福島県立博物館（復元品は福島県教育委員会）	
	91 象嵌鐙と復元品	白河市郭内横穴	1	7世紀	個人（復元品は福島県教育委員会）	
	92 うろこ状の象嵌	白河市郭内6号横穴	1	7世紀	白河市教育委員会	
	93 象嵌柄頭と復元品	白河市郭内8号横穴	1	7世紀	白河市教育委員会（復元品は福島県教育委員会）	
	94 象嵌？の復元品	白河市郭内8号横穴	1	7世紀	福島県教育委員会	
	95 象嵌鐙と復元品	いわき市八幡横穴	2	7世紀	いわき市教育委員会（復元品は福島県教育委員会）	
	96 日輪文の象嵌と復元品	いわき市八幡横穴	1	7世紀	いわき市教育委員会（復元品は福島県教育委員会）	
	97 象嵌の色見本				まほろん	
	98 見えない象嵌	鮫川村鉄木田古墳	1	7世紀？	鮫川村教育委員会	
	99 見えない象嵌	鮫川村鉄木田古墳	1	7世紀？	鮫川村教育委員会	
	100 見えない象嵌と復元品	いわき市中田横穴	2	6世紀	いわき市教育委員会（復元品は福島県教育委員会）	福島県指定文化財
	101 金の文字象嵌	埼玉県稲荷山古墳	1	5世紀	埼玉県立さきたま資料館（原資料 国宝 文化庁蔵）	
4 タガネの芸術	102 タガネ形の鉄製品	大阪府細工谷遺跡	2	奈良時代	大阪市教育委員会（大阪市文化財協会）	大阪市指定文化財
	103 龍をデザインしたベルトの金具	奈良県新山古墳	7	4世紀	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	
	104 金銅製の馬飾り	奈良県珠城山3号墳	1	6世紀	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	
	105 環頭大刀柄頭	出土地不明（伝山形県羽前京塚）	1		山形県立博物館	
	106 鞍の飾り	奈良県藤ノ木古墳	1	6世紀	奈良県立橿原考古学研究所（原資料 文化庁 国重要文化財）	
	107 鳳凰の刻まれた馬飾り	奈良県藤ノ木古墳	1	6世紀	文化庁（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）	国重要文化財
	108 鳥飾りの付いた冠	奈良県藤ノ木古墳	1	6世紀	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	
	109 魚飾りの付いた履	奈良県藤ノ木古墳	2	6世紀	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	
	110 ガラスを嵌めた履	群馬県谷ツ古墳	1	5世紀	かみつけの里博物館	
	111 はいて歩けない履	群馬県谷ツ古墳	1	5世紀	かみつけの里博物館	

「まほろん夏のてんじ」展示資料一覧

し、また東北地方の古墳時代象嵌資料を一堂に展示することができた。また図録として「まほろんてんじの本弘法山のよこあな」を発行した。



まほろん夏のてんじ図録表紙

展示内容

- 1 弘法山古墳群の調査成果
- 2 いにしえのガラス玉作り
- 3 弘法山象嵌大刀を復元する
- 4 タガネの芸術

※展示資料は別表の通りである。

関連行事

「ワークショップ象嵌ってなんだ？」

8月24日（土） 当館研修・実習室

象嵌の復元研究製作を委託したNPO法人工芸文化研究所より講師8名を招聘し、銅板に銀線象嵌で星座を表現したキーホルダーを製作した。30名の参加者があった。

3. まほろん秋のてんじ

「ふくしまの重要文化財—縄文・弥生編—」

平成14年10月26日～11月24日

趣旨 今年度から新企画としてスタートさせた、「国指定重要文化財（考古資料）」及び

「県指定重要文化財（考古資料）」に指定されている県内資料をシリーズで時代毎に紹介していく企画展である。また、併せて同時代の「県指定史跡」及び「国指定史跡」も併せてパネルで紹介していく。

第1回は、縄文時代と弥生時代に関わる県内の資料を対象として構成した。展示資料は表の通りである。

展示構成に特別なアレンジ等は付加させず、資料自体の観察・鑑賞・理解が容易なように時代及び遺跡毎に展示した。南壁付きハイケースに石生前遺跡出土品と常世原田遺跡出土品、西壁にはローケースに仙台内前遺跡出土品、独立ハイケースに土偶と人面付き弥生土器、北壁には大型ハイケースに天神原遺跡出土品、中央ローケース2台に寺脇貝塚出土品を配置した。北壁の一部と東壁面を用いて史跡紹介パネルを配置した。

期間中の入館者数は3,126人で1日の平均は120人だった。しかしながら、開幕前20日間の平均は135人で、期間中の方が漸減しており、本企画展が入館者数に大きな影響を与えたとは認識しがたいといえる。ただし、開



まほろん秋のてんじポスター

指 定 種	市町村	指 定 名 称	主 要 資 料	所 有 者	時代	点数
県指定重要文化財	福島市	仙台内前遺跡出土品	草創期土器片、石器	福島市	縄文	50点
県指定重要文化財	塩川町	常世原田遺跡出土品	早期土器片	福島県	縄文	95点
県指定重要文化財	柳津町	石生前遺跡出土品	中期土器、石器、土偶	柳津町	縄文	20点
県指定重要文化財	福島市	土偶		福島市	縄文	1点
県指定重要文化財	いわき市	寺脇貝塚出土品	漁労具、装飾品等骨角器	いわき市	縄文	250点
県指定重要文化財	表郷村	人面弥生土器		表郷村	弥生	1点
国指定重要文化財	楡葉町	天神原遺跡出土品	土器棺、勾玉、管玉	楡葉町	弥生	100点

「まほろん秋のてんじ」実物展示資料（点数は土器片や石器など小さな資料を含む）

指定種別	遺 跡 名	時代	市町村
県指定史跡	飯野白山住居跡	縄文	飯野町
県指定史跡	原瀬上原遺跡	縄文	二本松市
県指定史跡	前田遺跡（環状列	縄文	船引町
県指定史跡	舊世原田遺跡	縄文	塩川町
県指定史跡	窪田遺跡	縄文	只見町
国指定史跡	新地貝塚附手長明神	縄文	新地町
県指定史跡	社跡地貝塚	縄文	新地町
県指定史跡	鳥内遺跡	弥生	石川町
県指定史跡	天神原遺跡	弥生	楡葉町

「まほろん秋のてんじ」パネル展示資料一覧

催前1週間の平均が97人／日、閉幕後20日間平均が77人／日であることを勘案すると、冬季へ向かう急激な入館者減少の歯止めにはなったようである。

開催期間中の入館者の伸び悩みについては、宣伝・広報の不慣れが要因のひとつに挙げられる。今後、知名度の低さを効果的な広報施策で補っていく必要がある。



寺脇貝塚の
骨角器

4. まほろん春のてんじ

「新編陸奥国風土記 巻之二石背郡」

平成15年3月8日～5月18日

趣旨 「春のてんじ」は、まほろんに収蔵・保管している資料によって、福島県内各地域ごとの新たな風土記を編纂することを目的としたものである。「新編陸奥国風土記」を展示タイトルとした2回目の今回は、古代石背郡に属する須賀川市・天栄村にある遺跡出土品を通して、いにしえの石背郡の在り様に迫った。

展示内容

展示内容としては、縄文時代から近世までの幅広い時代を設定し、各々の時代ごとに特徴ある資料を展示した。また、関連資料とし



まほろん春のてんじポスター

て、須賀川市教育委員会保管資料も借用した。

1) イワセ人の登場

—縄文時代—

当地域の縄文時代を、暮らしの道具・墓制・装身具・ミニチュア土器・信仰祭祀具に焦点を当て、各遺跡の出土品を紹介した。

2) イワセ人の新たなくらし

—弥生時代—

当地域の弥生時代を、弥生土器と石器・鉄製品・土製品などから紹介した。弥生時代の始まりでは、前期の小規模集落（松ヶ作A遺跡・牡丹平遺跡）により、土器や石器、鉄製品などから当地域の弥生時代の始まりの様相を示し、弥生のムラと墓では、中期の小規模集落（土取場B遺跡・関林H遺跡）と土坑墓



まほろん春のてんじのようす

(大久保A遺跡・土取場B遺跡)の出土資料を紹介した。

3) 古墳とイワセ人のくらし

—古墳時代—

当地域の古墳時代を、古墳副葬品と集落から垣間見た。一斗内古墳群・下小山田古墳群・早稲田古墳群・治部池横穴墓群出土遺物から、イワセの後期古墳とその副葬品を紹介し、山崎遺跡の住居跡出土遺物から、6世紀初頭～7世紀前半にかけてのムラの移り変わりを生活具のメインである土器の変化で紹介した。

4) “まじない”と“まねた器”

—奈良・平安時代—

川屋向・沼平東・沼平遺跡の住居跡から出土した土鈴・丸玉・ミニチュア土器などの他、松ヶ作B遺跡や小枝遺跡(須賀川市教委調査)出土の動物形土製品などを通し、奈良時代のまじないを探った。また、須恵器を伴う松原・沼平東・関林D・関林G・関林K・関林H・五十堀田B・十三仏遺跡の住居跡資料により、9世紀～10世紀前半までの土器の変化を探った。この他、川屋向遺跡出土の金属製碗模倣土師器・関林H遺跡の灰釉陶器より、まねた器類を紹介した。

5) 山麓の製鉄工場と信仰

—中・近世—

阿武隈高地内にある銭神G・関林H遺跡の製鉄遺跡から、中世～近世にかけての小規模な製鉄工場と、その道具類を紹介し、近世の集団墓地である早稲田古墳群や近世塚である

栗木内塚・小倉地区塚群を通して、近世の墓地と信仰を紹介した。また、初山遺跡の板碑模型も展示した。

6) 山間部の家

—現代—

関林G遺跡出土の戦前・戦中資料を紹介した。

5. 復元研究

(1) 鋳型から復元した鉄製鋳物製品

1) 研究復元の目的

福島県浜通り地方の北側、相双地区の新地町から原町市にかけては、日本有数の古代(奈良・平安時代)製鉄遺跡が確認・調査されている。それらは、主に福島県教育委員会の委託を受け(財)福島県文化振興事業団遺跡調査部(旧(財)福島県文化センター遺跡調査課)が調査を実施したもので、出土した遺物等は、当館に収蔵・保管のうえ展示・活用されている。それらの製鉄遺跡からは、1次製錬炉(砂鉄を原料とし、鉄を作ること)や燃料である木炭を生成する木炭窯が多く認められたが、新地町向田A遺跡と相馬市山田A・猪倉B遺跡では、これらに加え鋳造炉が確認され、多種・多量の鋳型が出土している。鋳型から判明した鋳造製品は、獣脚付き容器・梵鐘・風鐸・三鈷杵等であり、いずれも鉄製品を鋳込んだものであることが判明している。

平成14年度の研究復元製作対象資料としては、獣脚付き容器と風鐸の2種類の製品を対象とした。これらの製品は現存していないが、鋳型から製品を復元することにより、古代の鋳造技術を推測し、さらに金属加工に関するこれまでの研究を発展・進化させ、本県



復元した獣脚付き容器

の古代史研究の象徴ともいえる
製鉄技術について追究する
ために実施した。

2) 復元資料

- ①向田A遺跡から出土した獣脚・器物鋳型から復元した獣脚付き容器（平安時代9世紀前半）
- ②山田A遺跡から出土した獣脚・器物鋳型から復元した獣脚付き容器（平安時代9世紀後半）
- ③山田A遺跡から出土した風鐸鋳型から復元した風鐸（平安時代9世紀後半）



復元した風鐸

(2) 江平遺跡出土「竹笛」研究復元製作

1) 概要

平成11年度に福島県教育委員会によって発掘調査された石川郡玉川村江平遺跡の沢跡から出土した「竹製横笛」を原資料として研究復元製作を行った。

「江平の笛」は「天平15年」（743年）の紀年銘のある木簡と同一層から出土したことから奈良時代中頃の笛と考えられ、正倉院に伝えられている横笛とほぼ同じ頃に作られたものと推定される。日本では最古級の竹製横笛といえる資料である。ちなみに横笛の出土例は奈良県天理市星塚1号墳から出土した古墳時代後期のものが最古とされるが、マツ材を用いており、笛として機能するものかどうか明確ではない。時代が近いものとしては宮城県名取市清水遺跡と同県多賀城市市川橋遺跡から平安時代の竹製横笛が出土している。

「江平の笛」を復元することは奈良時代のふくしまでどのような「音」が奏でられてい

たかを知る極めて重要かつユニークな事業である。正倉院宝物の笛を吹くことは勿論できないことから、復元した笛から奏でられる笛の音はまさに「時代を超えて甦る奈良時代の笛の音」であり、音楽史上においても意義深い試みといえる。

2) 委託

岐阜県可児市の横笛工房「九華」（代表者 田中敏長氏）に製作を委託した。

田中氏は能管、龍笛の製作家で、日本に数人しかいないプロ製作家の中の最若手として活躍している。上記清水遺跡から出土した平安時代の横笛復元も手掛けており、出土資料の研究を含めて古代の邦楽の復元に取り組んでいる唯一の人材といえる。日本雅楽会会員で宮内庁式部職楽部・能楽囃子笛方・邦楽各流派の横笛製作修理も担当し、東京や愛知で横笛教室講師も勤め、普及活動にも尽力している。

委託期間は平成14年4月2日より5月25日までで、5月24日に業務が完了し納品された。

3) 復元製作

原資料の法量は、途中で折損していることから全長は不明であるが残存長は約34cmを測る。直径は2cm（歌口部分）、厚さは0.3cmである。素材は「タケ」としか同定されていないが、メダケに最も近いという田中氏の観察結果を受けて復元に当たってはメダケを用いた。歌口は日本の伝統的横笛である龍笛・高麗笛・神楽笛などと比較すると極めて小さい特徴がある。原資料に残る指孔は4孔で少なくとも1孔の欠失が確認されることから指孔の数は5孔以上である。7孔の場合全長が長くなりすぎることから5孔または6孔である可能性が高い。よってこの2種をそれぞれ復元製作することとした。歌口側の端部は節で閉じており、紙礫等の詰め物や樺巻き、塗料等の装飾は一切ない。

4) 成果

復元製作の過程において「江平の笛」は遊具や玩具のレベルではなく相当に音律を具備した笛であることが判明した。また田中氏が

その音律を日本の横笛と比較した結果、龍笛・高麗笛・神楽笛の中で、神楽笛との共通・関連性が最も大きいことが指摘された。また、正倉院の4管の笛との比較では彫石製横笛に最も近い音律が得られている。

5) 展 開

完成した復元横笛については6月5日に田中氏の演奏を交えて報道向け発表を行い、同月23日には実技講座「横笛をつくろう」と共に「よみがえる天平の音色」と題した田中敏長氏による演奏会を開催した。



「江平の笛」出土品(下)と復元品(上)

9 ボランティア運営事業

1. 登 録

当館ボランティアの新規登録は、登録前オリエンテーションで概要説明を聞き、活動内容を十分知った上で一般研修を受講した希望者を館長が毎年4月1日付けで登録する形をとっている。

そのため、平成14年度に一般研修を受講した者は平成15年度新規登録ボランティアとして登録される。平成14年度ボランティアについては上表のとおりである。



ボランティア活動のようす

平成14年度登録者数	58名
平成14年度登録最年少年齢	23歳
平成14年度登録最年長年齢	76歳
平成14年度登録者平均年齢	54.0歳
平成15年度新規登録者対象 登録前オリエンテーション参加者	9名
平成15年度新規登録者対象 一般研修受講者数	9名
平成15年度新規登録申込受付期間	平成14年 9月1日(日)～ 29日(日)
登録前オリエンテーション実施日	平成14年 10月6日(日)

ボランティア登録状況

2. 活 動 内 容

まほろんボランティアの平成14年における活動内容は以下のとおりである。

- 屋内及び野外展示施設の案内・解説
- 屋内及び野外で行う体験学習の指導
- エントランスホール及び館内の案内
- 収蔵資料の整理補助
- 体験学習器材の製作
- 講座・講演会開催時における運営支援
- 古代の畑の管理などの環境整備の支援

以上の活動は、平成13年度から引き続き、当館からの提案した内容として行われている。平成14年度は新たに、ボランティアの発想を生かしながら、ボランティアが中心になって実施する自主活動として、以下のものが追加された。

- まほろんオリエンティングの運営
- 開館記念イベントの企画・実施

3. ボランティア受け入れ体制

当館のボランティア活動については、交通費や昼食などを支給しない無償ボランティアを原則としている。

しかし、ボランティア活動実施中の事故等を補償するボランティア保険の掛け金(1名あたり500円)、ボランティア用ユニフォーム、休憩室用お茶代、ボランティア研修費用等に関しては当館で負担して、活動環境の整備を図っている。

また、野外及び館内活動中の休憩およびボランティア相互の交流の場として利用できるように体験学習館および本館内それぞれにボ



実技講座のサポート

ランティアルームを設置するとともに、本館内のボランティアルームに活動配置表や活動記録簿を設置して活動の拠点とした。

4. ボランティアコーディネーターの設置

教育普及課に正・副2名の、研修課、総務管理課に各1名のボランティア担当者を置いている。おもには、教育普及課の担当者が当館の窓口として、ボランティアのスケジュール・活動場所等の調整を行うほか、ボランティアの意見・ニーズの集約などの業務を行った。

種別	研修 No.	研修項目	平成15年度新規登録者 対象研修実施日
一般 研 修	1	館内施設概要 展示概説	14年10月20日
	2	周辺の文化財巡検	14年10月27日
	3	野外展示解説 考古資料の取り扱い	14年11月17日
	4	屋内展示解説 火おこし	14年12月8日
	5	屋内展示解説 勾玉づくり	15年1月19日
	6	屋内展示解説 拓本の取り方	15年1月26日
	7	屋内展示解説 アタラシ編み	15年2月2日
	8	防災と救急の基礎知識 接遇の基本と実践	15年2月16日
	9	縄文土器作り	15年3月2日
	10	土笛づくり 土鈴づくり	15年3月16日
特別 研 修	1	旧石器時代概説	14年7月27日
	2	中・近世概説	15年1月25日
	3	木製品概説	15年2月22日
	4	弥生時代概説	15年3月15日
館外 視 察 研 修	1	窯業史博物館 那須官衙跡 栃木県立なす風土記の丘 (小川・湯津上館) 下侍塚古墳	14年10月27日
	1	縄文土器作り (加曽利貝塚土器作り同好会)	14年11月9～10日
代 表 者 研 修	2	来館者に対する案内・解説 (国立科学博物館)	14年11月22～23日

ボランティア研修一覧

5. ボランティア研修

ボランティア活動の充実のためにボランティアを対象とする研修については、全員を対象にした一般研修と希望者を対象にした特別研修及び代表者館外研修の3種類の研修を実施した。実施した研修については、下表のとおりである。

また、当館で準備する研修のほかに、ボランティアの興味・関心に応じた自主研修グループが組織された。「土器作り」グループと「カラムシ栽培・布編み」グループが、月1回程度活動している。

6. 開館1周年記念イベント

「まほろん1周年だよ！ボランティア2002」

まほろん開館1周年を向かえた夏、ボランティアが自ら実行委員会を立ち上げ、平成14年7月20日（土）に記念イベントを行った。イベントに必要な資金は、フリーマーケットへの出店で確保した。イベント当日は親子連れを中心に600名を越える来館者があった。イベントの内容は以下のとおりである。

- まほろんオリエンテーリング
(試行的に実施し、以後毎月行われている。)
- チャレンジ火おこし
- 槍投げ
- ウルトラクイズ
(歴史クイズを○×方式で答えていくもの。)
- 草履とばし
- 昔のおもちゃで遊んでみよう
(お手玉、折り紙、独楽回し、竹とんぼ作り)
- 歴史ビデオ上映
- お楽しみコーナー
(わたあめ、かき氷、カルメ焼き、水風船を無料で提供した。)



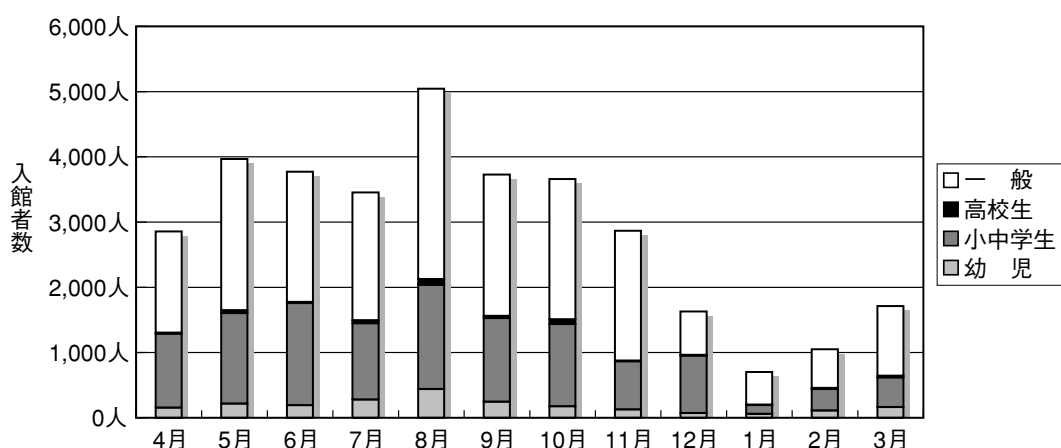
開館1周年記念イベントのようす

第5章 平成14年度入館者統計

当館は入館無料の公開施設であることから、徴収観覧料の区別から正確な入館者数等をつかみ得ない、そこで、来館者には入館時に居住地（県内は市町村名、県外は県名のみ）・年齢層・人数に関してのみ記帳の協力を得て、できる限り利用者の実態を把握するよう努めている。ここで掲載する利用状況のデータは、入館者の記帳を基にしたデータから作成した統計である。

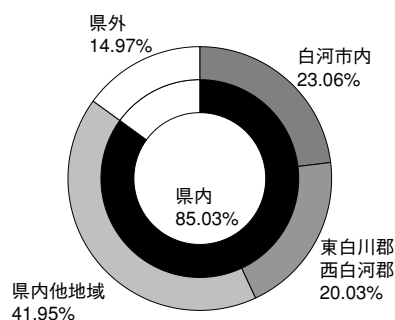
1 月別入館者数

	開館日数	幼 児	小中学生	高 校 生	一 般	合 計	月別構成比	日平均
4 月	25	156	1,134	14	1,552	2,856	8.29	114
5 月	27	217	1,387	45	2,318	3,967	11.52	147
6 月	26	194	1,565	17	1,997	3,773	10.95	145
7 月	26	281	1,169	44	1,961	3,455	10.03	133
8 月	27	441	1,598	86	2,920	5,045	14.65	187
9 月	25	248	1,281	32	2,168	3,729	10.83	149
10月	28	176	1,260	73	2,152	3,661	10.63	131
11月	26	129	737	11	1,990	2,867	8.32	110
12月	23	72	881	10	667	1,630	4.73	71
1 月	23	61	134	7	500	702	2.04	31
2 月	23	112	328	17	593	1,050	3.05	46
3 月	26	164	455	24	1,069	1,712	4.97	66
合計	305日	2,251人	11,929人	380人	19,887人	34,447人	100.0 %	113人

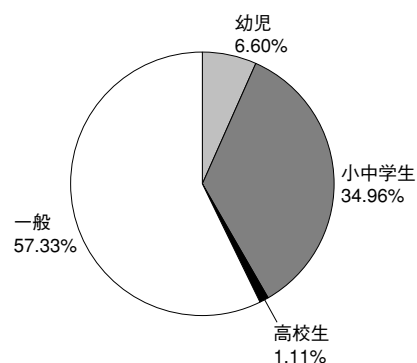


2 区分別利用状況

地域別構成比



年齢別構成比



3 団体利用状況

団 体			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
学 校 関 係	幼稚園・保育園	園 数			1	2		1	1						5
		入館者数			71	96		78	50						295
	小 学 校	学 校 数	7	13	12	5		10	12	7	11		1		78
		入館者数	424	555	729	230		527	706	332	617		19		4,139
	中 学 校	学 校 数	2	1	1	3	3	1	4	1			1		17
		入館者数	160	66	10	196	214	55	194	41			87		1,023
	高 等 学 校	学 校 数							2						2
		入館者数							70						70
	養 護 学 校	学 校 数		1	1	1			1	1			2		7
		入館者数		89	10	38			30	9			34		210
	大 学	学 校 数				1		1		2					4
		入館者数				25		40		57					122
	小中高P T A (保護者のみ)	学 校 数		1	2	2	2	3	7	3		1			21
		入館者数		27	44	68	54	69	140	67		17			486
	小中高P T A (親子レク等)	学 校 数			2	2	2	4	3	2	1				16
		入館者数			242	63	113	231	186	120	64				1,019
生涯学習関係	研 究 会	会 数	1		4		2	1	1						9
		入館者数	50		80		10	14	21						175
	子 ど も 会	会 数	1		2	9	1			1	1			1	16
		入館者数	37		94	290	36			26	14			37	534
	公 民 館 等	館 数	2	6	8	5	9	10	9	5	2	1	1		58
		入館者数	48	234	422	170	293	446	294	102	63	16	45		2,133
社会福祉関係	福 祉 施 設 デイケアサービス	団 体 数	1	5	1	1	1	2		5					16
		入館者数	18	91	23	16	15	47		79					289
文化団体関係	資 料 館 等	館 数		2	4	1	1		2	1					11
		入館者数		26	108	12	8		54	3					211
	歴 史 研 究	団 体 数		1	2	2		1		1				1	8
		入館者数		42	150	49		18		21				60	340
行政機関関係	県・市町村・教委・審議会等	団 体 数	1	5	1	5	1	5	5	2	3	1	1	3	33
		入館者数	24	84	50	85	30	118	64	73	58	16	8	40	650
そ の 他	団 体 数		4	2	5	6	2	2	14	24	2	1	4	4	70
		入館者数	120	33	171	198	40	76	347	470	47	13	56	96	1,667
合 計	団 体 数		19	37	46	45	24	41	61	55	20	4	10	9	371
	団 体 入 館 者 数		881	1,247	2,204	1,536	813	1,719	2,156	1,400	863	62	249	233	13,363
総 入 館 者 数			2,856	3,967	3,773	3,455	5,045	3,729	3,661	2,867	1,630	702	1,050	1,712	34,447
団体利用者の割合 (%)			30.85%	31.43%	58.42%	44.46%	16.11%	46.10%	58.89%	48.83%	52.94%	8.83%	23.71%	13.61%	38.79%

第6章 まほろんの施設の概要

施設名 福島県文化財センター白河館
所在地 〒961-0835
福島県白河市白坂字一里段86番地
設置者 福島県
所 管 (管理機関) 財団法人福島県文化振
興事業団

開 館 平成13年7月15日

○建 築

設 計 株式会社佐藤総合計画
工事監理 福島県土木部都市局営繕課、
株式会社佐藤総合計画
施 工
建築工事 佐藤工業株式会社・株式会社
兼子組特定建設工事共同企業
体
機械設備工事 山田設備工業株式会社
電気設備工事 福島電設株式会社

○展 示

設計監理 日精株式会社
屋内展示製作 株式会社乃村工藝社
屋外展示製作 株式会社トリアド工房

1 建築概要

敷地面積 51,827.51㎡
建築面積 本館・収蔵庫棟 5,999.955㎡
体 験 学 習 館 133.627㎡
延床面積 本 館 棟 2,400.046㎡
収 蔵 庫 棟 2,999.769㎡
計 5,399.815㎡
体 験 学 習 館 92.71㎡
構 造 本館棟 鉄筋コンクリート造
収 蔵 庫 棟 鉄骨造、
体験学習館 木造
規 模 地上1階
最高高さ 10.29m 軒高8.79m
階 高 4m
駐車台数 一般駐車場91台(身障者用4台)・
大型車駐車場10台・臨時駐車場40
台・職員駐車場21台・駐輪場28台
地域地区 都市計画区域内、無指定

主な外部仕上げ

(本 館 棟)

屋 根 フッ素鋼板瓦棒葺
陸屋根 アスファルト防水コンクリート
押さえ
外 壁 コンクリート打放し一部はつり
仕上フッ素系シラン塗装
建 具 アルミサッシ電解着色
外 構 インターロッキングブロック
(環境整備工事)

(収蔵庫棟)

屋 根 フッ素鋼板瓦棒葺
外 壁 コンクリート打放し一部はつり
仕上フッ素系シラン塗装
押出し成形セメント板フッ素系
シラン塗装
建 具 スチール製建具

(体験学習館)

屋 根 フッ素鋼板瓦棒葺
外 壁 粒状陶石
建 具 アルミサッシ電解着色

主な内部仕上げ

(エントランス・プロムナードギャラリー)

床 フローリング
壁 コンクリート打放しはつり仕上
フッ素シラン塗装、木練付不燃
パネル
天 井 木練付不燃パネル

(常設展示室)

床 タイルカーペット
壁 ガラスクロスビニルエナメル
天 井 岩綿吸音板、一部溶接金網メラ
ニン焼付け二重天井化粧石膏ボ
ード

(講 堂)

床 フローリング
壁 腰壁／グラスウール吸音材+集成材
染色塗装 上壁／岩綿吸音板
天 井 岩綿吸音板

(収蔵庫棟)

床 塗り壁
 壁 木繊維セメント板・セメント成型板
 天井 木繊維セメント板

(体験学習館)

床 合板張り一部畳敷き
 壁 合板オイル拭き
 天井 合板オイル拭き

2 設備概要

◎電気設備 受電方式／高圧6.6KV 1回線受電変圧器容量/400KVA 予備電源／非発電50KVA

非常証明設備・誘導灯設備 建築基準法に基づいて設置

放送設備 非常放送と兼用 出力240W

電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備

電話設備 電子交換外線4回線 (ISDN) 内線55回線

監視設備 分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停

制御及び計測監視

◎防犯・防災設備

防犯設備 赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置

し、監視制御システムと併用

ITV設備 ITVを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視

火災報知設備 受信盤P型1級19回線 (自火報) 4回線 (防排煙設備)、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器6箇所

防災設備 消火／屋内・屋外消火栓、HFCガス消火方式 排煙／自然排煙

放火扉設備 5回線

雷警報設備 襲雷警報器 (コロナーム)

避雷針設備

◎空調設備

空調方式／一般系統：ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式 (一部空冷HP) + 静止型全熱交換器

特別収蔵庫系統：単一ダクト (空冷冷専用パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式

常設展示室・特別展示室：単一ダクト (ガスエンジンHPP) 方式

熱源／都市ガス (ガス種別：プロパン)

(単位：㎡)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9				

主要諸室面積表

◎衛生設備

給排水設備 給水／水道直結方式 給湯／
局所式

排水／汚水・雑排水：屋内分
流・屋外合流（最終桝でポンプ
アップ）方式で下水道本管へ放
流

雨水：側溝放流

多目的便所 屋内1箇所（男女別）屋外1
箇所（男女別）トイレ呼出設備付

◎升降機設備

荷物用リフター 2 基 一般収蔵庫（油圧式
最大積載量1,000kg）

搬入口（油圧式 最大積載量1,000kg）

工 期 着工 平成11年 7 月12日

完成 平成12年10月16日

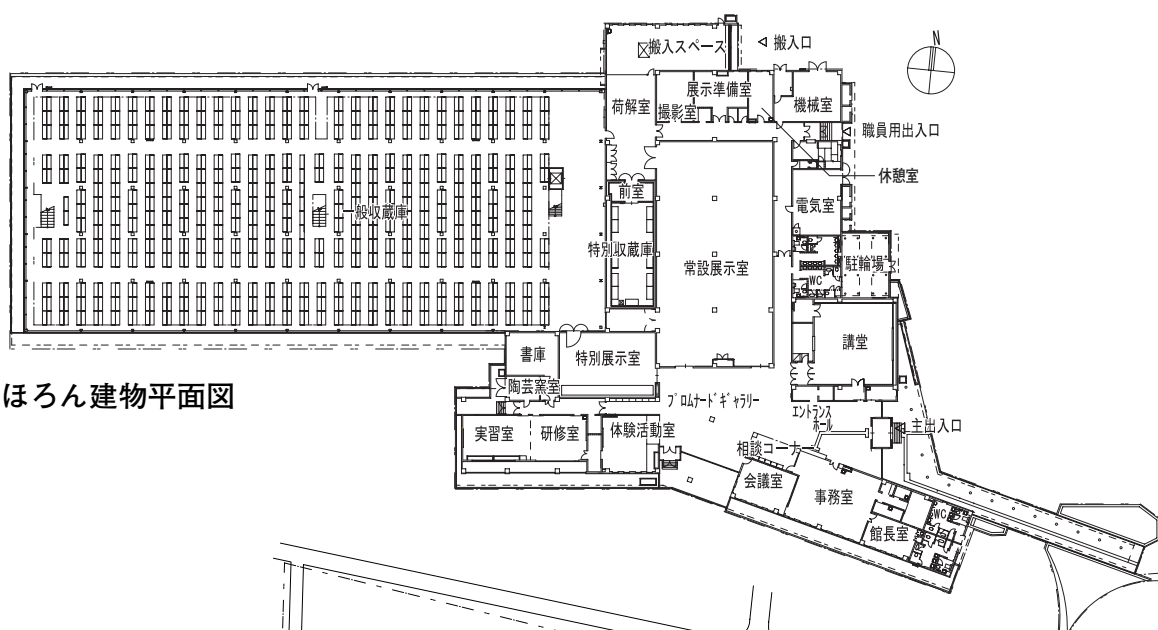
建築事業費 2,690,848千円

公有財産購入費 222,095千円

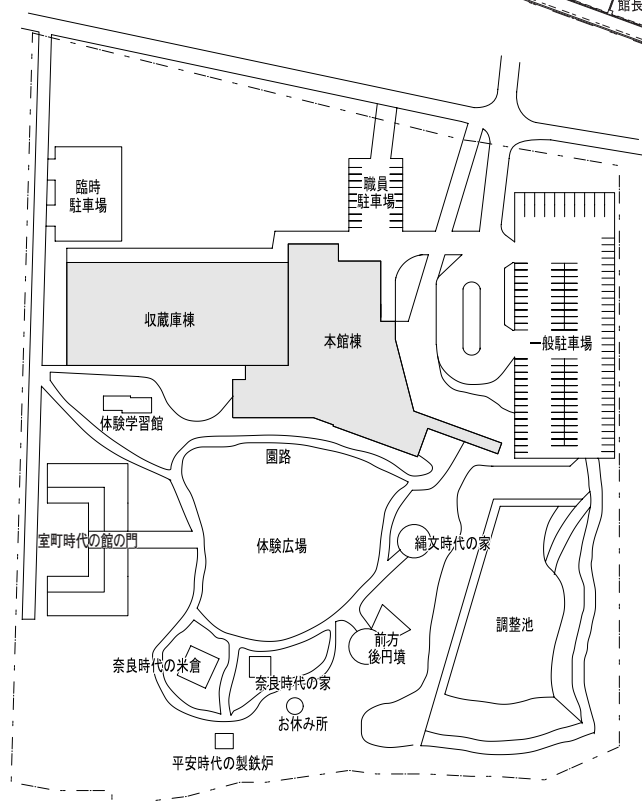
その他の経費	387,682千円
--------	-----------

合 計 3,300,625千円

まほろん建物平面図



まほろん施設配置図



第7章 まほろんの条例・規則

1 条 例

(平成13年3月27日福島県条例第43号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)

第244条第1項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 白河館は、白河市白坂字一里段86番地に置く。

(業務)

第3条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- (2) 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- (3) 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- (4) 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (5) 文化財に関する調査研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- (6) 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(遵守事項)

第4条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 物品を販売し、又は頒布しないこと

(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

- (3) 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- (4) 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。
- (5) 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第5条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命じることができる。

- (1) 前条の規定に違反した者
- (2) 白河館内の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- (3) 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(使用料の不徴収)

第6条 白河館の使用料は、徴収しない。

(管理の委託)

第7条 教育委員会は、白河館の設置の目的を効果的に達成するため、民法(明治29年法律第89号)第34条に規定する法人であって知事が指定するものに対し、その管理を委託することができる。

2 前項の規定による管理の委託は、同項の知事が指定する法人と教育委員会との協議により、次に掲げる事項を定めて行うものとする。

- (1) 委託する施設の名称、位置、構造及び規模
- (2) 委託の年月日
- (3) 管理の方法
- (4) 委託の条件
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委託に関し必要な事項

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

2 条例施行規則

(平成13年3月27日福島県教育委員会規則第3号)

(休 館 日)

第1条 福島県文化財センター白河館（以下「白河館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。
- (2) 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

2 福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 白河館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(文化財等の特別利用)

第3条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第4条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成13年福島県条例第43号）の施行の日から施行する。



雪のまほろん

まほろんの利用案内

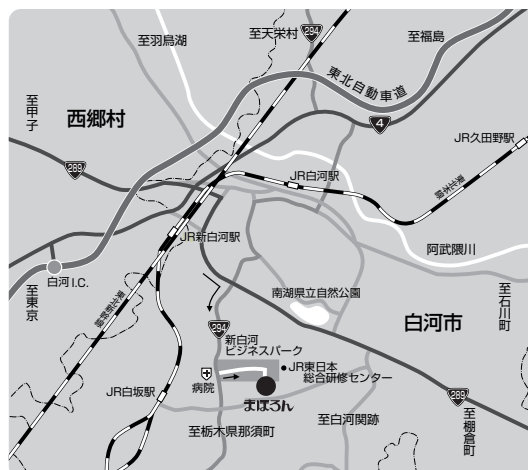
開館時間 • 午前 9 時30分～午後 5 時（入館は午後 4 時30分まで）

休 館 日 • 毎週月曜日（国民の祝日の場合その翌日）
• 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）、
• 年末年始（12月28日～1月4日）

入 館 料 • 無料

交通案内 • J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から福島交通バス（まほろん・市民球場・白坂行き）まほろんバス停下車
• J R バス（棚倉行き）南湖公園下車25分
• 東北自動車道白河 I.C.から車で20分

そ の 他 • 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いすも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報2003

平成16年 3 月31日発行

編集 財団法人福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 白河市白坂字一里段86
<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
発行 福島県教育委員会
〒960-8670 福島市杉妻町 2 -16
印刷 株式会社山川印刷所

表紙デザイン 久家光夫

